

真宗

〈教団の動き〉

教区及び組の改編「山陽四国教区」発足

山陽四国教区「被爆80周年非核非戦法会兼原爆
死没者追弔法会」勤修

北海道教区

「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年
慶讃法要」厳修

〈お知らせ〉

2026年度式の期日のお知らせ

第2種共済復興共済積立金の現況について

寺院活性化支援事業冊子「お寺の会計入門」お寺
の会計編」発行

寺院活性化支援室ウェブサイトにリニューアル

「2026年7月1日改定」同朋会館冥加金・
施設維持管理協力金について

2024年度宗派経常費御依頼額収納の御礼

9月号

2025(令和7)年



涉成園 燕申堂 入口（7月11日～9月30日「京の夏の旅」）

新刊のご案内

民藝 他力の美

太田浩史 著

民藝とゆかりの深い富山県南砺市に生まれ育った太田浩史氏（大福寺住職）が、柳宗悦をはじめ民藝運動に参加した様々な人物のエピソードも交えた29のエッセイで、「他力の美」である民藝の世界を案内する一冊。

太田浩史

民藝の美、それは他力の美。美しくしかならないもの。

民藝 他力の美



若松英輔氏
(批評家・随筆家)
推薦

東本願寺出版

〈若松英輔氏（批評家・随筆家）推薦！〉

「この本で著者が、読み手と分かち合おうと試みているのは、回答めいた事実ではなく、民藝とともに生きることによって見えてくる地平であり経験である」（本文寄稿より）

A5変形判／オールカラー・96頁 定価：2,200円（税込）

東本願寺出版
HIGASHI-HONGANJI PUBLISHING

TEL:075-371-9189まで

詳しい書籍情報・試し読みは

東本願寺出版

検索

当派の寺院・教会からのご注文は2割引となります。

法蔵館文庫

語られた親鸞
塩谷菊美(著)

一、四三〇円

承香殿の女御
角田文衛(著) 上原作和(解説)

一、二一〇円

女の力
西口順子(著)

一、四三〇円

女の信心
勝浦令子(著)

一、五四〇円

小川善明(著)
比叡山二千五百基の僧墓を初調査！全墓碑銘の翻刻と写真、地図を掲載し、各諸院の歴代住職一覧を付した、比叡山史の根本資料、待望の刊行！序文Ⅱ第二、五八世天台座主・大樹孝啓。推薦Ⅱ末本文美士

比叡山延暦寺僧墓総覧

全3巻

九三、五〇〇円

増訂 日本占領と宗教改革
岡崎匡史(著) 八二五〇円
GHQ占領下、「国家神道」解体を目的に進められた宗教政策その実態と顛末を、神道とキリスト教の相克を軸に壮大な視点で描き出す。



禪者としての鈴木大拙
塚崎直樹(著) 二、八六〇円
僧侶ではなく、学者でもない。鈴木大拙とは何者か。柳宗悦、岡村美穂子ら七人の言説を母念に追ひ、禪者大拙の姿を浮き彫りにする。



真宗

9月号

第1458号

樹心佛地「寺院と門徒とのコミュニケーション」……………	2
教団の動き……………	3
教区及び組の改編「山陽四国教区」発足	
「遠松忌法要—高木顕明師を想う集い—」勤修	
『精進ごはん』重版(3刷)記念「お膳でいただくお斎の会」開催	
山陽四国教区「被爆80周年非核非戦法会兼原爆死没者追弔法会」勤修	
北海道教区「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」厳修	

お知らせ

2026年 得度式の期日のお知らせ……………	4
第2種共済復興共済積立金の現況について……………	5
ほとけの子リーフレットNo.6『親鸞聖人(であい)』発行……………	6
寺院活性化支援事業 冊子『お寺の会計入門～お寺の会計編～』発行……………	8
参議会議員辞職のお知らせ……………	11
寺院活性化支援室ウェブサイトリニューアル……………	13
『坂東本 教行信証』カラー影印縮刷本 予約受付中……………	14
宗派公式ウェブサイト『真宗』誌の内容を閲覧できます……………	15
[2026年7月1日改定] 同朋会館冥加金・施設維持管理協力金について……………	16
2024年度宗派経常費御依頼額収納の御礼……………	20
身元調査は、しない! させない! ゆるさない!……………	22
2025年「御正忌報恩講」参拝のご案内……………	24
2025年 御正忌報恩講「子ども報恩講のつどい」……………	27
2025年 御正忌報恩講・御正忌報恩講讃仰法要(音楽法要) 出仕要項……………	28
2025年 得度式受式者及び住職・教会主管者就任者への出仕講習会開催要項……………	29

各種連載

ハンセン病はいま(331)……………	30
青少年センターニュース……………	32
児童教化のページ(592)……………	34
今月のお寺(227)〈京都教区泉龍寺〉「これからとこれまでをともに生きる」……………	36

ご案内・要項

総合相談室……………	37
(広告) 月刊『同朋』9月号	
—特集「ZINE—誰にも頼まれていないけど作りたい私のメディア」……………	42
若者教化立ち上げ応援プロジェクト募集要項……………	43
真宗本廟奉仕・縁・諸研修報告【上山報告】……………	44
大谷祖廟(親鸞聖人御廟所)のご案内……………	45
現在受付中の募集・開催要項等……………	45
真宗教化センターしんらん交流館のご案内……………	46
真宗本廟 参拝接待所のご案内……………	47
真宗本廟奉仕のご案内……………	47

公示・告示・任免等

……………	48
-------	----

寺院と門徒とのコミュニケーション

樹心佛地

「令和六年能登半島地震」が発災した二〇二四年一月一日を実施日とした第八回教勢調査の結果が「報告書」としてまとめられた。報告書に示されるように「教勢調査のねらいは、宗門の教勢の実態を統計データに基づいて客観的に把握するとともに、施策立案のための基礎資料を作成すること」であり、まさに「教団の足もと」を明らかにする重要な意味を持つ。

報告書では、「過去の調査結果では、教勢は停滞状況にあるとされていた。しかし、今回の調査結果が示すのは、教勢の停滞ではなく衰退である」という衝撃的な言葉とともに、寺院と門徒の関係を保つことが難しい状況を指摘している。同時に、門徒との関係性維持に関してコミュニケーションについての考察がなされているが、この点は今後の教勢を大きく左右する一つのカギになるのではないだろうか。

今年度は、宗務改革の取り組みの一つとして『同朋新聞』のリニューアルが企図されている。この『同朋新聞』が、本山―寺院―門徒を繋ぐ大きなコミュニケーションツールとなることを願いとした取り組みである。

しかし、残念ながら『同朋新聞』が全ての門徒に行き渡っていないという現実問題を抱えている。この配布の課題について、本山が何らかの施策を講じるべきとの声も聞こえる。しかし、施策を講じたとしても最終的には、各寺院が積極的に取り組むか否かにかかっている。『同朋新聞』が毎月寺から届けられることによって、真宗大谷派の門徒である、そして〇〇寺がお手次の寺院である、このような認識に繋がっていくという効果を得られる。

報告書の末尾には、門徒との関係性構築について、決して目新しいことが必要ではなく、伝統的に実践してきた仏事をはじめ日常的な門徒とのコミュニケーションの積み重ねの重要性が述べられている。その一歩として、まずは『同朋新聞』の配布拡大に全宗門あげて取り組み、真宗再興と教勢の興隆を願うものである。

教 団 の 動 き

教団の動き

組織部

7/1

教区及び組の改編

「山陽四国教区」発足

— 18教区体制へ —

二〇二五年宗会（常会）において、山陽教区・四国教区における新教区発足についての議決がなされ、七月一日付で「山陽四国教区」が発足し、全国十八教区となりました。

また、同日付にて組の改編も行われ、四国教区「東予組・松山組・宇和島組」が山陽四国教区「伊予組」に、岡崎教区「第三組・第三十組」が岡崎教区「第三組」になったこと

宗務執行方針伝達のための年度当初の諸会議を開催

〔7月〕

七月からの新年度に際し、各教区・別院の役職者が一堂に会し、宗務執行方針伝達のための諸会議が行われました。

本年度は全国教務所長会が七月一日、全国教区会正副議長会が三日、全国教区門徒会正副会長会が八日、専任輪番会が十日に、いずれも、しんらん交流館を会場に開催されました。

各会議冒頭の挨拶において、木越渉宗務総



教務所長会の様子（7月1日）



山陽四国教務所開所式

とから、組数は三九三カ組から三九〇カ組となりました。

被害の甚大な能登教区への支援や復興という質を持った教区改編のあり方を模索しながら、教区改編の実現に向け協議が進められます。

なお、残る第二期改編教区で

〔山陽四国教区〕

・山陽四国教務所

〒670-0044

兵庫県姫路市地内町1番地

・四国教務支所

〒760-0044

香川県高松市御坊町1番地15

旧山陽教務所が教務所となり、旧四国教務所が教務支所となりました。

は、引き続き、

長は、「教区慶讃法要」「非核非戦の集い」及び能登教区にて開催された「第五十三回教区同朋大会・令和六年能登半島地震・奥能登豪雨物故者追弔法会」、そして現在取り組みを進めている「宗務

改革」、「行財政改革の推進」、「是旃陀羅問題の課題」について述べました。「第五十三回教区同朋大会・令和六年能登半島地震・奥能登豪雨物故者追弔法会」については、「身を乗り出して聴聞しておられる方々を見て、支援に必要な物資と共に、仏法を届ける責務があると、痛烈に感じた。そのための施策・準備を宗門全体として歩んで参りたい」と述べました。

また「宗務改革」「行財政改革の推進」については、「一人の意識改革なしに、宗門の改革はない、これを改革の基礎・基軸として堅持し、向後の宗門を形作りたい」と述べ

解放運動推進本部

〔6/24〕

「遠松忌法要―高木顕明師を想う集い―」勤修

―前を訪う今、この時代に聞く

非戦・平等の願い―

六月二十四日、大阪教区第二十三組浄泉寺(和歌山県新宮市)において、遠松忌法要が勤修されました。この法要は、「大逆事件」に連座し、宗門から擯斥処分とされた高木顕明師の復権・顕彰と、師の非戦・平等への歩みをたずねる集いとして、二〇〇〇年から宗



顕彰碑前での勤行



鶴見氏による法話

十一時から、新宮市内の南谷墓地にある「高木顕明師顕彰碑」前で勤行がありました。十三時から浄泉寺本堂において、住職の山口浄華氏を導師として法要が勤修され、山田孝彦解放運動推進本部長が表白を拝読しました。勤行に引き続いて顕明師の「余が社会主義

ました。特に今注力すべき施策が『同朋新聞』紙面の充実と、新聞が一人でも多くの門徒や有縁の方々に行き届くことであり、「各教区・各組・各寺院における主体的な取り組みとな

るよう、ご協力をお願いしたい」と述べました。その後、内局との懇談の場が持たれ、各会議ともに活発な意見交換がなされました。

派主催(大阪教区・難波別院共催)で勤まっています。

法要には、大阪教区主催のバスツアー参加者をはじめ、全国から多くの方々が参拝し、法要後には交流会が開催されました。これまで顕明師のご命日である二十四日の直前の土曜日に勤まってきた法要を今年のご命日当日(平日)へと変更した影響が心配されましたが、浄泉寺のご門徒や地元・新宮市の市民など、約百名の参拝がありました。

2026年 得度式の期日のお知らせ

2026年の得度式の期日は下記のとおりです。(2025年7月1日付告示第2号)

月	事前説明会	得度式	月	事前説明会	得度式
1月	なし		8月	3日(月)	4日(火)
2月	なし			6日(木)	7日(金)
3月	5日(木)	6日(金)	9月	7日(月)	8日(火)
4月	なし		10月	6日(火)	7日(水)
5月	5日(火)	6日(水)	11月	5日(木)	6日(金)
6月	22日(月)	23日(火)	12月	なし	
7月	なし				

お問い合わせ 組織部(教務) 075-371-9184

教 団 の 動 き

出版部

『精進ごはん』重版(3刷)記念

「お膳でいただくお斎の会」開催

7/12

が朗読された後、鶴見晃氏(同朋大学教授)から「浄土への願い」と題した法話がありました。鶴見氏は、顕明師の新宮での歩みが浄土を願うものであったことを確かめるとともに、私たちがどのような浄土を願うのかを問い直すことが顕明師の志願を受け継ぐことになると語られました。

法要後、前住職の山口範之氏は挨拶で、顕

明師の願いは非戦とともに平等の実現にあったと語り、遠松忌法要をお勤めする意義が確かめられました。

◆法要の様子はYouTube

浄泉寺チャンネルから

ご覧いただけます↓



七月十二日、涉成園・閻風亭において、東本願寺出版発行の『精進ごはん―おうちでできるレシピ108』重版(三刷)を記念し、「お膳でいただくお斎の会」と題した料理教室を

開催しました。講師は著者で料理家の森かおる氏。本書の中から五品の精進メニューを作るうえでのコツを、主にデモンストレーション形式で説明しながら、十九名の参加者とともに輪島塗のお膳に盛り付け、閻風亭から見える池や庭園を眺めながら食事をしました。食事の間は、旬の野菜をふんだんに使ったレシピを作成し、毎日の料理が楽しく美味しくなる工夫を凝らす森氏に、調味料のことや食材に関して様々な質問があったほか、職員より涉成園の歴史や建物の紹介も行われました。



料理の説明を行う森氏



閻風亭で庭を眺めながらの食事

参加者からは「精進料理の敷居が低くなりました」「ボリューム

第2種共済復興共済積立金の現況について

組 織 部

第2種共済とは、一般の損害保険とは異なり、宗派に属する寺院・教会の相互扶助(「同朋相互扶助の精神」)を基本とし、災害にあわれた大切な聞法道場である寺院・教会の本堂、庫裡等の一日も早い復興を願って設けられた共済制度です。1口でも多くのご加入をお願い申し上げます。

つきましては、共済条例施行条規第22条により、第2種共済特別会計条例第6条に定める基金である「復興共済積立金」の保管状況を下記のとおりお知らせします。

記

1 復興共済積立金総額 **43億3,320万670円**

(2025年7月24日現在)

以上

企画調整局 (寺院活性化支援室)

「6/27」

「蓮如上人御影道中

お立ち寄り会所交流学習会」

(越前市・南越前町・敦賀市エリア) 開催

― 道中を歩む側と迎える側の

相互理解深まる ―

六月二十七日、北国街道の宿場町、今庄にある福井教区浄念寺(福井県南条郡)を会場に「蓮如上人御影道中お立ち寄り会所交流学習会」が開催されました。御影道中のルート



谷口敏前会長によるお話



交流の場

たつぷりで美味しかったです」「素晴らしい景色の中で特別な時間となりました」「次回も楽しみにしています」などの感想がありました。

◆「精進ごはん―おうちでできる
レシピ108」(税込1,430円)は
東本願寺出版でお買い求めいただけます。



を七つのエリアに分けて開催されているこの学習会は今回で四回目となります。

会場となった浄念寺は御影道中の御下向では五日目(四月二十一日)の昼食会所、御上洛では三日目(五月四日)の宿泊会所を勤める寺院。当日は近隣の会所寺院や会所宅の関係者、御影道中協力会役員など約二十五名が集まりました。今回は谷口敏氏(御影道中協力会前会長)から、長年にわたる供奉人や協力会としての経験談や各会所への感謝の気持ちを込めたお話を伺った後、参加者全員が車座になった交流の場が設けられました。

交流の中では、お立ち寄り会所、昼食会所、宿泊会所それぞれ抱える悩みや、これまでの歩みなどが共有され、御影道中を歩む側と迎える側の心構えや意識の共有がなされました。中でも昼食会所の食事内容に関する話題では、「おもてなしを受ける側がどんなおもてなしでも十分と思ってもらえるのはありがたい。しかし冷たいお茶を出すか温かいお茶を出すか一つとつ

お知らせ ほとけの子リーフレット No.6 『親鸞聖人(であい)』発行

青少幼年教化教材「ほとけの子リーフレット」のリニューアル第6弾として、「親鸞聖人」シリーズの「出家」、「道を求めて」に続く第3作目となる、「親鸞聖人(であい)」を発行しました。リーフレットは「8月末寺院・教会定期直送便」に同梱しています。

舞台は、親鸞聖人が師である法然上人とであった吉水の草庵です。親鸞聖人の長い一生を支え続けた、別れることのない大切なであいを描いています。子ども会や法務など様々な教化の場でぜひご活用ください。

◇ご購入の際は青少幼年センターまでお問い合わせください(無償)。送料は負担いただきます(レターパックでの送付は除く)。TEL:075-354-3440 E-mail:oyc@higashihonganji.or.jp ほとけの子リーフレットはウェブからもダウンロードできます。



教 団 の 動 き



直綴をたたむ様子



参加者同士で互いに教え合う

「声明作法お稽古奉仕団」開催

研修部

【6 / 9 ~ 10】

六月九日から十日にかけて、初めて「声明作法お稽古奉仕団」を開催しました。

この奉仕団は、声明作法をより丁寧に学びたい、装束のたたみ方を学び直したい、お内仏の莊嚴作法を確認したい僧侶を対象とした奉仕団であり、今回は八名が参加しました。

まず、参加者から学びたい内容・要望を聞いたうえで、実際に直綴・墨袈裟のたたみ方

や扱い方等の装束作法、「正信偈真四句目下」の稽古、出退作法、お内仏のお給仕、撥擲き、御文の扱い方といった基礎的な知識や作法の指導がありました。

今回は、一泊二日の日程でしたが、声明作法の行儀習得だけでなく、奉仕団の特性を活かし、仲間と語り合いながら聞法生活を送り、充実した時間を過ごしました。

二〇二五年度は左記のとおり開催を予定しており、今後は同朋会館ホームページにて募集を行います。

でも、どうしたら喜ばれるかを会所の人は気にかけていることも知ってもらいたい」といった声があるなど、会所同士で思いを分かち合う場面も見られました。

なお、残り三エリア(高島市/長浜市・米原市/野洲市・守山市・大津市・京都市)については二〇二五年度中の開催を予定していません。

- ① 2025年8月5日～6日 1泊
- ② 2025年12月11日～13日 2泊
- ③ 2026年1月9日～11日 2泊
- ④ 2026年5月30日～31日 1泊

第50回「京の夏の旅」御影堂門楼上・涉成園 燕申堂 特別公開

京都市・京都市観光協会主催のキャンペーン「京の夏の旅」において、東本願寺の「御影堂門楼上」・「えんしんどう涉成園 燕申堂」を特別公開します。

この機会にぜひ拝観ください。

期間 7月11日(金)～9月30日(火)

時間 10時～16時30分 (16時受付終了)

※「涉成園 燕申堂」を拝観される場合は、涉成園の拝観受付を15時45分までにお通りください。

詳しくは「京の夏の旅特設サイト」をご覧ください。



涉成園 燕申堂

釘隠

◆「運如上人御影道中」
情報ポータルサイトはこちら↓



東京宗務出張所

〔6 / 11〕

東京真宗同朋の会「ぶらり親鸞」開催

六月十一日、「ぶらり親鸞」が開催され、東京真宗同朋の会員およびサンガネット会員等十八名が参加しました。「ぶらり親鸞」は、首都圏に点在する聖人ゆかりの地を巡る一日旅で、新型コロナウイルスを経て七年ぶりの開催となりました。

当日は雨の中、天台宗西光寺（葛飾区四ツ木）、真言宗西光寺（葛飾区宝町）を参拝しました。両寺院は、関東布教に向かう途中で長雨に見舞われた聖人が、五十三日間逗留されたことを



聖人の伝承伝説の説明をする小林氏

つかけに浄土真宗の法灯を伝える寺院となり、その後現在の宗派へと改宗されています。それぞれ住職より由緒や沿革が話され、通常非公開の法室物や史跡も見学しました。講師として

お知らせ

寺院活性化支援事業 冊子『お寺の会計入門～お寺の会計編～』発行

このたび、真宗教化センター寺院活性化支援室では、支援事業の一環として、冊子『お寺の会計入門～お寺の会計編～』を発行しました。冊子は「8月末寺院・教会定期直送便」に同梱しています。

また、寺院活性化支援室ウェブサイトでは冊子のPDFデータを提供していますのでご利用ください。



1. 発行の背景

寺院活性化支援室が取り組む支援活動や関連調査の中で、「会計や税務といった運営面の不安が大きく、本来取り組むべき教化活動にまで思いを巡らせることが難しいお寺がある」という現場の声があります。特に、寺族で会計事務を行う寺院から実務支援へのニーズがあり、税理士法人烏丸会計事務所の監修協力のもと、本書の発行に至りました。

2. 冊子の特徴

会計の基本的な考え方から、日々の会計処理、予算・決算に係る書類の作成に至るまで、仮想寺院を事例に解説しています。会計事務の見直しにお役立てください。

3. 関連動画

冊子の要点を全4回で解説した支援動画「動画で学ぶ！お寺の会計入門」を、しんらん交流館 YouTube チャンネルにて公開しています。冊子と併せてご利用ください。



お問い合わせ 企画調整局（寺院活性化支援室） TEL：075-371-9208

教 団 の 動 き

山陽四国教区

〔7/6〕

「被爆80周年非核非戦法会兼原爆死没者追弔法会」勤修

―声を聞き、願いを引き継ぐ―

七月六日、広島別院明信院にて「被爆八十年非核非戦法会兼原爆死没者追弔法会」が勤修されました。児童や青年など様々な世代の姿が見られ、遠近各所から五十七名が集つての法会となりました。法会は泉原寛康広島別院輪番の挨拶に始まり、勤行では「阿弥陀経」の読経と「正信偈」が同朋唱和され、雅楽の音色と勤行の声が響きました。

勤行後には、被爆体験証言者の切明千枝子氏と「ヒロシマとつなぐ会」の佐藤優氏のお話がありました。切明氏は十五歳の時に学徒動員で勤務していた被服支廠で被爆した体験を語り、「被爆時のことを忘れたいと思えば思うほど思い出します。ああ、これは忘れてはいけないことなんだなと、やっと気がついた」と八十歳の時の思いを振り返りました。続いて佐藤氏が、自身の活動のきっかけや切明氏との出会いを話されました。佐藤氏は

同行した小林尚樹氏（東京六組光明寺）は、東京教区宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌記念事業として行われた「関東に点在する伝承伝説の調査」に携わっており、真宗門徒があまり目を向けてこなかった伝承伝説が身近にあ

ったこと、「伝承伝説だから」と軽んじられがちな事柄の中にも、確かに親鸞聖人のみ教えを喜び相続してきた人々がいた歴史を、それぞれの地で話されました。四ツ木・宝町の地に真宗の教えが息づいて



勤行の様子



質問に応じる切明氏と佐藤氏

このたびの法会では、五月十七日の山陽教区「非核非戦のつどい」でも使用された子どもたちによる手作りの打敷が掛けられており、この打敷は今後も使用されます。また山陽四国教区公式YouTubeチャンネルには「非核非戦のつどい」の切明氏らの鼎談の様子などが公開されています。戦争の惨禍を忘れないように、非核非戦の願いを、被爆者の声を、様々な世代と共に聞く八十年目の法会となりました。

（山陽四国教区通信員・青山祐一）

被爆者の方々の歩みを紹介し、「何が語られていないのか、空白や沈黙が伝えるものを想像していくことが求められていると思います。被爆者の声をなかつたことにしない、亡き人の記憶を殺さないように、私は色んな方の声に耳を傾け、考え続けていきたいと思っています」と語りました。

お話後の質疑応答では、切明氏が「核兵器廃絶、世界平和をあきらめないで執拗に叫び続けていくことが、広島役目であり、被爆者たちの願いでもございます」と願いの発信を呼びかけました。

◆山陽四国教区公式
YouTubeチャンネルは<https://www.youtube.com/channel/UC...>



真宗大谷派学校連合会

第20回「事務職員研修会」開催

〔6/20～21〕

宗派学校連合会では、六月二十日から二十一日まで、第二十回「事務職員研修会」を開催しました。本研修会は、「建学の精神の具現化―「不易流行」―変えないこと・変えて行くこと―」のテーマのもと、加盟校の事務職員一人ひとりが変化の激しい現代社会において、「変えて行くべきこと、変えてはならないこと」の見つめ直しを目的として開催されました。

初日は、大谷中学・高等学校（京都）の創立一五〇周年記念フォーラムに参加し、「樹



大間実氏による講義

心に問う」のテーマのもと、山極壽一氏（総合地球環境学研究所）、大間実氏（東大谷高等学校、大谷中学・高等学校（大阪）宗教科非常勤講師）より、「建学の精神という問いかけ―ここで出あえた真宗―」を講義が行われました。そして、グループ討議を実施した後、全体で報告会を行いました。最後に五反田康裕氏（学校連合会運営委員）より総括が行われ、研修会が終了しました。

本研修会には、真宗大谷派学校連合会加盟校十五校より、二十二名が参加。参加者からは「学校の建学の願いの確かめと、その願いをかけられている私自身であることを立ち止まって考えることができた」という声がありました。

第29回「校長協議会」開催

〔6/27～28〕

宗派学校連合会では、六月二十七日から二十八日まで、第二十九回「校長協議会」を開催しました。本研修会は、「建学の精神の具現化を目指して―歎異抄に学ぶ―」のテーマのもと、加盟校の校長が一同に集い、親鸞聖人の教えを共に学び、各校の建学の精神を確かめ、宗教教育のさらなる展開を遂げることを目的として開催されました。

初日は、宗務所を会場に、名和達宣教学研究



班別座談

を中心―」の講義のもと、講義が行われました。引き続き、引き続き、班別座談を実施し、その後、全体での報告会を行いました。最後に名和氏より総括が行われ、一日目が終了しました。

二日目は、株式会社祇園辻利の協力のもと、仏教に通ずるお茶の精神や歴史の講座、お茶に関わりの深い建仁寺（臨済宗建仁寺派）の拝観を実施し、学びを深めました。最後に大谷大学尋源講堂にて閉会式を行い、協議会は終了しました。

本研修会には、宗派学校連合会加盟校十八校より、十八名が参加。参加者からは「親鸞聖人の教えを基とする学校として、つまずかないための教育ではなく、つまずいて知らされる大地の広やかさとそこから立ち上がる力を養う教育を心掛けていきたい」という声がありました。

教 団 の 動 き

災害救援本部より

■「令和6年能登半島地震」 ボランティア支援センターのご案内

能登教務所に設置している「ボランティア支援センター」では、宗派関係者のボランティア活動に対して、宿泊場所の提供・活動経費の助成等の支援を行っています。

被災地域では息の長い支援を必要としています。能登教区でのボランティア活動を希望される方は、ボランティア支援センターにお問い合わせください。



ボランティア支援センターホームページ

※宿泊・活動助成等の詳細はボランティア支援センターホームページをご覧ください。

〒926-0816 石川県七尾市藤橋町テ9-1【能登教務所内】
TEL：070-1860-6010（専用電話）
FAX：0767-53-0057【能登教務所】
E-mail：nvsc@higashihonganji.or.jp

■救援金のお願ひ

宗派では、このたびの「令和6年能登半島地震」に対する救援金の勧募を行っております。皆様からの温かいご支援をお願い申し上げます。

【令和6年能登半島地震指定救援金総額】

247,767,063円（7月28日現在）

※宗派救援金口座及び境内救援金箱に寄せられた救援金の総額

【救援金口座】 郵便振替口座番号
00920-3-203053

【加入者名】 真宗大谷派
※通信欄に「令和6年能登半島地震」とご記載ください。

〈最新情報はこちら〉

宗派公式ウェブサイト→



宗派災害情報公式X→



関係学校が真宗本廟参拝・研修を行う

〔6月〕
六月に宗派学校連合会加盟校による真宗本廟参拝・研修が行われました。実施校は左記のとおりです。

〈参拝〉

◇東大谷高等学校【二年生】

三三一名／六月十二日

〈研修〉

◇大谷大学一泊研修会【教化学演習Ⅱ】

二十一名／六月七日～八日



東大谷高等学校（6月12日）

参議会議員辞職のお知らせ

二〇二五年七月七日付で、山陽四国選挙区（旧山陽選挙区）選出の保田義一氏（やすだ よしかず）山陽教区第二組光宗寺門徒）が辞職されました。

二〇二五年七月十日付で、新潟選挙区選出の吉田衛氏（よしだ まもる）新潟教区中越十三組浄照寺門徒）が辞職されました。



教区 慶讃法要

北海道教区

〔6 / 22〕

「北海道教区 宗祖親鸞聖人御誕生 八百五十年・立教開宗八百年慶讃 法要」厳修

— 音楽の力で仏教をより身近に

六月二十二日、カナモトホール（北海道札幌市）にて「北海道教区宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」が厳修され、道内各地から約一五〇〇名が参拝しました。

法要は二部構成で、日程一部は「音楽法要」で勤まりました。ステージには十三名の僧侶と、合唱団の方々が登壇し、力強い声明と美しい歌声が響き渡りました。参拝者には事前



僧侶と合唱団が声を響かせる

に慶讃法要委員が作成した「音楽法要冊子」が配布され、会場は歌とお念仏の声で満たされました。

酒井義一氏（東京教区存明寺）の法話も、随所に合唱団による歌



寺田沙世氏と「碧い海」の子どもたち

唱が織り込まれ、多くの参拝者にとつて初めての法話形式となり、身乗り出して聞き入る様子が見られました。酒井氏は「親鸞聖人に出遇うとか」という問いを投げかけ、「親鸞聖人に実際に

会うことはできないが、その教えにふれ、慶びの中に生きた人に出遇うということが、現代において親鸞聖人に出遇うということである」という立野義正氏の言葉を紹介されました。また、「親鸞聖人は過去の人ではなく、私たちがこれから出遇う未来の人なのである」という、宮城顕氏の言葉を紹介し、未来で私たちが待つ聖人に会いに行かなければならぬと力強く語られました。

日程二部では、寺田沙世氏（北海道教区浄見寺）が歌う「ヒカリコトバ」に合わせて、石狩大谷子供劇団「碧い海」の子どもたちが元気いっばいのダンスを披露し、会場は温かい雰囲気になりました。そして北海道出身のシンガーソングライター・半崎美子氏のライブが始まると、会場の熱は最高潮に達しまし

た。歌詞には、命の大切さや生きる意味への問いかけが込められており、慶讃テーマ「南無阿弥陀仏人と生まれたことの意味をたずねていこう」と深く共鳴するものでした。

またカナモトホールホワイエには、差別問題、靖国問題、ハンセン病問題、原発問題など現代社会が抱える様々な問題を取り上げるパネルが展示されました。



パネル展に見入る参拝者

参拝者からは、「音楽法要は初めてで、本当に来るところができて良かった」「音楽に合わせて自然と念仏申していた」「半崎美子さんの歌に涙が止まらなかつた」といった声が

寄せられました。

今回の慶讃法要は、伝統的な法要の枠を超え、音楽の力によって仏教の教えをより身近に、より深く感じられる、新しい可能性を示唆するもので、忘れられない感動と学びの機会となりました。

（北海道教区通信員・矢田真之）



お知らせ 寺院活性化支援室ウェブサイトリニューアル

真宗教化センター寺院活性化支援室では、「浄土真宗ドットインフォ」内に開設している「寺院活性化支援室」のウェブサイトを全面的にリニューアルしました。

寺院活性化支援室では、寺院への各種調査や聞き取りを行う中で把握した多様なニーズにお応えすべく、新たな支援策の展開を積極的に進めています。

今回のウェブサイトリニューアルは、これらの多岐にわたる支援事業について、より多くの寺院に「どのような支援が受けられるのか」を明確にお伝えし、円滑にご活用いただくことを目指しました。

◆リニューアルのポイント

新ウェブサイトは、求める情報に迅速かつ確実にアクセスできるよう、以下の点を重視して改善を行いました。

(1) 必要な情報にたどり着きやすいシンプルな構成

直感的で分かりやすいデザインを採用しました。これにより、初めてサイトを訪れる方でも迷うことなく、目的の情報に到達しやすくなるよう設計しています。

(2) 多数の支援事業をカテゴリごとに整理

支援室が提供する多様な支援事業をカテゴリごとに分類しました。これにより、各寺院の状況や課題に合致する支援事業を見つけ出しやすくなりました。

(3) 「お知らせ」機能による新たな支援情報の発信

最新の支援情報やセミナー開催案内、事例紹介などをタイムリーにお届けする「お知らせ」機能を新設しました。



日々の教化活動がより一層充実するよう、寺院活性化支援室は今後も様々な情報を提供してまいります。ぜひ、新しくなったウェブサイトを教化活動にご活用ください。

お問い合わせ 企画調整局（寺院活性化支援室） TEL：075-371-9208



お知らせ 『坂東本 教行信証』カラー影印縮刷本 予約受付中

宗祖親鸞聖人の主著であり、浄土真宗の根本聖典である『教行信証』。特に「坂東本」と呼ばれる『教行信証』は、唯一の宗祖自筆本です。

『顯浄土眞實教行證文類〈翻刻篇〉』や『宗祖親鸞聖人著作集一』、『真宗聖典 第二版』と照応しながら、宗祖の著述に基づく学びを深めていただくことを願い、『坂東本 教行信証』カラー影印縮刷本を発行します。



『坂東本 顯浄土眞實教行證文類』 カラー影印縮刷本

掲載内容（四分冊）

- 〈一〉「教巻・行巻」を収載
160頁
- 〈二〉「信巻」を収載
192頁
- 〈三〉「証巻・眞仏土巻」を収載
144頁
- 〈四〉「化身土本巻・化身土末巻」
を収載 232頁

※各頁数は予定

聖教編纂室 編
A4変形判（縦30.5cm×横23cm）・オールカラー・箱付き

◆カラー影印縮刷本について

- ①影印本とは複製本のことです。この本は、「坂東本」の本文全頁の写真をカラーで掲載し、「坂東本」の頁割と同様に画像を配置しました。
- ②「坂東本」の約90%の縮尺で写真を掲載しています。
- ③翻刻文と合わせて活用いただけるよう、『顯浄土眞實教行證文類〈翻刻篇〉』の頁数を併記しています。

予約受付について

期間：2025年6月1日～9月15日

価格：99,000円（税込・送料込） → 予約期間の注文に限り79,200円（税込・送料込）

※寺院・教会割引は適用されません。

- ①東本願寺出版公式オンラインショップにてご注文いただけます。はがき・メール・FAXでのご注文の場合は、お名前・住所・電話番号・部数を明記の上、「東本願寺出版」までお送りください。
※高額のためお電話での注文は受け付けておりません。何卒ご了承ください。
- ②発送時期は、2025年11月下旬を予定しております。
- ③お知らせいただきました個人情報は、書籍の送付・請求以外に使用いたしません。

■東本願寺出版（真宗大谷派宗務所出版部）
〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る
E-mail：books@higashihonganji.or.jp FAX：075-371-9211

東本願寺出版

検索



お知らせ

宗派公式ウェブサイトで『真宗』誌の内容を閲覧できます

2025年7月より、これまで『真宗』誌で掲載してきた内容が、宗派公式ウェブサイトでも閲覧可能となります。それに伴い、『真宗』誌面も順次掲載内容の精査を行っていきます。

今後、ウェブ上での情報発信をさらに充実させていきますので、これまで以上に宗派公式ウェブサイト及び公式SNSをご活用いただきますよう、ご案内します。

【宗派公式ウェブサイトトップ】 ※スマートフォン版 2025年7月以降

東本願寺
真宗大谷派
東本願寺

法要・行事カレンダー
～今日の東本願寺では何がある？～
2025年9月

月曜日	9月1日
火曜日	9月2日
水曜日	9月3日
木曜日	9月4日

お酒（精進料理）をいただく

庭園を散策する

東本願寺周辺を巡る

寺院の方へ
寺院の方へのお知らせ
各種手続き方法・申請書ダウンロード

新設 【宗派情報コーナー】

宗派情報

樹心の動き

募集・告知

宗会(總會)

同朋新聞

機関誌・真宗

樹心佛地(真宗善講堂)

宗会情報

親近談・春の正堂

採用情報

公宗・告示・任免辞令・教平

組織情報

真宗大谷派法規総覧

同朋会運動

宗会議員選挙

★主なポイント★

- ✓ 巻頭言「樹心佛地」や「教団の動き」、宗会情報などもウェブサイトに掲載。
- ✓ 「教区から」欄は、しんらん交流館ウェブサイト浄土真宗ドットインフォへ移行。(2025年9月頃～)
- ✓ ウェブサイトに「法要・行事カレンダー」を掲載し、どなたでも参拝・参加可能な行事を一覧で表示。

※ウェブサイトで閲覧可能な情報は、『真宗』誌面の掲載を割愛する場合があります。

真宗大谷派公式ウェブサイト ⇒
<https://www.higashihonganji.or.jp/>



お知らせ**【2026年7月1日改定】 同朋会館冥加金・施設維持管理協力金について**

真宗本廟奉仕等で同朋会館に入館された方々から「来てよかった」「感動した」などのお声を頂戴しています。今後とも教導・補導らスタッフ一同で皆さまをお迎えしたいと思います。

しかしながら、昨今の著しい物価高や燃料高騰等の影響により、同朋会館の運営費が上昇しています。今後も同朋会館での生活を実のあるものとして皆さまがお過ごしいただけるよう、2026年7月1日より同朋会館冥加金及び施設維持管理協力金を改定します。何とぞご理解のほど、よろしく願いいたします。

改定内容の概要は以下のとおりです。

ご不明な点は、東本願寺同朋会館 研修部（TEL：075-371-9185）までお問い合わせください。

1 同朋会館冥加金の改定について**(1) 同朋会館冥加金（下線部が改定後の金額）**

期 間	種 別	大人 (15歳以上) ※学生以外	学生・高校生	小中学生	団体園児	未就学児
2泊3日 (最大7食付)	通 常	18,000円→ <u>22,000円</u>	13,500円→ <u>16,000円</u>	9,000円→ <u>11,000円</u>	5,000円→ <u>7,000円</u>	0円
	加盟校・加盟園	—	12,000円→ <u>13,000円</u>	7,500円→ <u>8,500円</u>	3,500円→ <u>4,500円</u>	—
1泊2日 (最大4食付)	通 常	13,000円→ <u>16,000円</u>	9,500円→ <u>11,000円</u>	6,500円→ <u>8,000円</u>	3,500円→ <u>5,000円</u>	0円
	加盟校・加盟園	—	8,500円→ <u>9,500円</u>	5,500円→ <u>6,500円</u>	2,500円→ <u>3,500円</u>	—

※加盟校・加盟園は教職員を含みます。

(2) 米代金の価格変更について

[2泊3日] 米 2 kg (1升4合) の場合の米代金1,300円から1,500円に変更します。

[1泊2日] 米1.2kg (8合) の場合の米代金800円から900円に変更します。

(3) 本廟奉仕促進補助金「団体補助」について

加盟校・加盟園への団体補助を取りやめます。

2 施設維持管理協力金の改定について**(1) 施設利用について**

施設及び設備の利用について、「2時間あたり」の利用単価を「1時間あたり」に改定します。

(2) 施設利用時に提供する食事について

1食700円から800円に改定します。なお、提供可能日は、従来どおり食堂稼働日に限ります。

【お問い合わせ】 研修部（同朋会館）

TEL: 075-371-9185 FAX: 075-371-9201 E-mail: dobokaikan@higashihonganji.or.jp

同朋会館冥加金について

2025年7月1日現在

1 同朋会館冥加金

期間	種別	大人 (15歳以上) ※学生以外	学生・高校生	小中学生	団体園児	未就学児
2泊3日 (最大7食付)	通常	18,000円	13,500円	9,000円	5,000円	0円
	加盟校・加盟園	—	12,000円(教職員も同額)	7,500円(教職員も同額)	3,500円(教職員も同額)	—
1泊2日 (最大4食付)	通常	13,000円	9,500円	6,500円	3,500円	0円
	加盟校・加盟園	—	8,500円(教職員も同額)	5,500円(教職員も同額)	2,500円(教職員も同額)	—

注意事項

- 上記冥加金の他に、2泊3日の場合は米2kg(1升4合)または米代金1,300円、1泊2日の場合は米1.2kg(8合)または米代金800円が必要です(未就学児は免除)。
- 食事数を減らした場合でも、冥加金・米代は同額となります。
- 「障害者手帳」及び「生活保護受給者証」をお持ちの方は、冥加金を減額いたしますので、事前にお申し出ください。
- 身体的介助が必要な方が参加される場合は、介助者お一人分の冥加金・米代を免除いたします。
- 学生に各真宗学院生は含みません。
- 「加盟校」とは「真宗大谷派学校連合会」加盟校を、「加盟園」は「公益社団法人大谷保育協会」加盟園を指します。

本廟奉仕は2泊3日または1泊2日の日程ですが、やむを得ず1日参加となる場合は、下表を適用します。なお、1日(日帰り)の本廟奉仕はありませんので、ご注意ください。

期間	種別	大人(15歳以上) ※学生以外	学生・高校生	小中学生	団体園児	未就学児
1日(最大3食付)	通常	6,500円	4,500円	3,000円	1,500円	0円

※米(または米代)はいただきません。また、学生・高校生、小中学生及び団体園児には加盟校・加盟園の教職員を含みます。

2 本廟奉仕促進補助金

皆さまに継続して本廟奉仕に取り組んでいただくことを願いとして、同朋会館冥加金をお納めいただいた際に、本廟奉仕促進補助金を交付します。

補助金交付は、下記の(1)団体補助、(2)旅費補助の二種とし、お納めいただく同朋会館冥加金から、該当の補助金額を差し引かせていただきます。

(1) 団体補助

団体	参加人数	1～4人	5～9人	10～19人	20～29人	30～39人	以降、10人増える毎に1人分を補助
		補助額	0.5人分	1人分	2人分	3人分	
加盟校 加盟園	参加人数	1～99人	100～149人	150～199人			以降、50人増える毎に50,000円を補助
	補助額	—	50,000円	100,000円			

注意事項

- 種別や対象にかかわらず、算出方法は本表に統一します。
- 通常の団体に対する補助額は、当該団体の年齢構成にかかわらず、未就学児を含む同朋会館冥加金を納める総人数から算出し、上記1に定める当該団体の奉仕日数に応じた同朋会館冥加金(大人)の額を適用します。
- 「加盟校」は「真宗大谷派学校連合会」加盟校を、「加盟園」は「公益社団法人大谷保育協会」加盟園を指します。
- 加盟校及び加盟園に対する補助額は、学校行事及び園行事以外の場合、参加人数は通常の団体を基準とし、補助額は上記1に定める当該団体の奉仕日数に応じた同朋会館冥加金(加盟校・加盟園)の額を適用します。

(2) 旅費補助

同朋会館からの直線距離(目安)	150km未満	150km以上250km未満	250km以上500km未満	500km以上
該当都道府県	福井県・岐阜県 愛知県・三重県 滋賀県・京都府 大阪府・兵庫県 奈良県・和歌山県	富山県・石川県 静岡県・鳥取県 岡山県・徳島県 香川県	茨城県・栃木県・群馬県 埼玉県・千葉県・東京都 神奈川県・新潟県・山梨県 長野県・鳥根県・広島県 山口県・愛媛県・高知県	北海道・青森県・岩手県 宮城県・秋田県・山形県 福島県・福岡県・佐賀県 長崎県・熊本県・大分県 宮崎県・鹿児島県・沖縄県 海外開教区
補助額(中学生以上)	—	500円	1,000円	3,000円
補助額(小学生・団体園児)	—	250円	500円	1,500円

注意事項

- 旅費補助は同朋会館冥加金を納める参加者に適用します(ただし、未就学児を除く)。
- 奉仕日数及び人数にかかわらず、1人単位で補助します。

《お問い合わせ》 研修部(同朋会館) TEL:075-371-9185 FAX:075-371-9201 E-mail: dobokaikan@higashihonganji.or.jp

同朋会館冥加金について【2026年7月1日改定】

1 同朋会館冥加金

期間	種別	大人 (15歳以上) ※学生以外	学生・高校生	小中学生	団体園児	未就学児
2泊3日 (最大7食付)	通常	22,000円	16,000円	11,000円	7,000円	0円
	加盟校・加盟園	—	13,000円 (教職員も同額)	8,500円 (教職員も同額)	4,500円 (教職員も同額)	—
1泊2日 (最大4食付)	通常	16,000円	11,000円	8,000円	5,000円	0円
	加盟校・加盟園	—	9,500円 (教職員も同額)	6,500円 (教職員も同額)	3,500円 (教職員も同額)	—

注意事項

- 上記冥加金の他に、2泊3日の場合は米2kg(1升4合)または米代金1,500円、1泊2日の場合は米1.2kg(8合)または米代金900円が必要です(未就学児は免除)。
- 食事数を減らした場合でも、冥加金・米代は同額となります。
- 「障害者手帳」及び「生活保護受給者証」をお持ちの方は、冥加金を減額いたしますので、事前にお申し出ください。
- 身体的介助が必要な方が参加される場合は、介助者お一人分の冥加金・米代を免除いたします。
- 学生に各真宗学院生は含まれません。
- 「加盟校」とは「真宗大谷派学校連合会」加盟校を、「加盟園」は「公益社団法人大谷保育協会」加盟園を指します。

本廟奉仕は2泊3日または1泊2日の日程ですが、やむを得ず1日参加となる場合は、下表を適用します。

なお、1日(日帰り)の本廟奉仕はありませんので、ご注意ください。

期間	種別	大人(15歳以上) ※学生以外	学生・高校生	小中学生	団体園児	未就学児
1日(最大3食付)	通常	7,500円	5,500円	4,000円	2,500円	0円

※米(または米代)はいただきません。また、学生・高校生、小中学生及び団体園児には加盟校・加盟園の教職員を含みます。

2 本廟奉仕促進補助金

皆さまに継続して本廟奉仕に取り組んでいただくことを願いとして、同朋会館冥加金をお納めいただいた際に、本廟奉仕促進補助金を交付します。

補助金交付は、下記の(1)団体補助、(2)旅費補助の二種とし、お納めいただく同朋会館冥加金から、該当の補助金額を差し引かせていただきます。

(1) 団体補助

団体	参加人数	1～4人	5～9人	10～19人	20～29人	30～39人	以降、10人増える毎に1人分を補助
	補助額	—	0.5人分	1人分	2人分	3人分	

注意事項

- 補助額は、当該団体の年齢構成にかかわらず、未就学児を含む同朋会館冥加金を納める総人数から算出し、上記1に定める当該団体の奉仕日数に応じた同朋会館冥加金(大人)の額を適用します。
- 加盟校及び加盟園は団体補助の適用はありません。

(2) 旅費補助

同朋会館からの直線距離(目安)	150km未満	150km以上250km未満	250km以上500km未満	500km以上
該当都道府県	福井県・岐阜県 愛知県・三重県 滋賀県・京都府 大阪府・兵庫県 奈良県・和歌山県	富山県・石川県 静岡県・鳥取県 岡山県・徳島県 香川県	茨城県・栃木県・群馬県 埼玉県・千葉県・東京都 神奈川県・新潟県・山梨県 長野県・鳥根県・広島県 山口県・愛媛県・高知県	北海道・青森県・岩手県 宮城県・秋田県・山形県 福島県・福岡県・佐賀県 長崎県・熊本県・大分県 宮崎県・鹿児島県・沖縄県 海外開教区
補助額(中学生以上)	—	500円	1,000円	3,000円
補助額(小学生・団体園児)	—	250円	500円	1,500円

注意事項

- 旅費補助は同朋会館冥加金を納める参加者に適用します(ただし、未就学児を除く)。
- 奉仕日数及び人数にかかわらず、1人単位で補助します。

《お問い合わせ》 研修部(同朋会館) TEL:075-371-9185 FAX:075-371-9201 E-mail: dobokaikan@higashihonganji.or.jp

真宗本廟奉仕施設の施設利用について【2026年7月1日改定】

真宗本廟奉仕をより広く知っていただき、多くの方々への真宗本廟奉仕のご縁づくりとなるよう、施設に空きがある場合に限り、真宗本廟奉仕以外の研修等でも当施設をご利用いただけます。ぜひ教区・組・寺院・関係団体の参拝や研修等でご利用ください。

お申し込み・お問い合わせは、研修部（TEL：075-371-9185）までご連絡ください。

1 申し込みについて

予約の受付開始は、施設利用の半年前から、空き状況に応じて随時、先着順で受け付けます。

利用申請書は、来館・郵送・FAX・メール等にてご提出ください（利用予定日の1週間前までに申請書の提出がない場合は予約を取り消します）。

なお、利用できる時間・場所・諸制限等は、利用日によって異なりますので、予約時にご相談させていただきます。

また、予約をキャンセルされる場合は、必ずご連絡くださいますようお願いいたします。

2 施設維持管理協力金

施設利用にあたっては、次に定める「施設維持管理協力金」を納付いただきます。

協力金の納付は、利用日当日から1週間以内とし、以下の方法で納付ください。

①来館による現金払い

②口座振込（振込手数料は利用者にて負担いただきます）

施設（一室あたり）	9:00-17:00 （1時間あたり）	17:00-21:00 （1時間あたり）
同朋会館：居室、B～D会議室 研修道場：研修室、会議室、声明作法室1 和敬堂：声明作法室2	1,500円	2,500円
同朋会館：東法話室・中法話室	3,000円	4,000円
同朋会館：A会議室、多目的スペース 東講堂・西講堂 和敬堂：講堂、講義室	3,500円	4,500円

設備	一式 （1時間あたり）	内容	お一人
音響機器	各500円	食事 （施設利用時のみ）	800円
プロジェクター・スクリーン		合掌御膳	1,500円
その他		※食堂稼働日に限ります。	

注意事項

- 1 表の金額は1時間あたりの利用単価とし、1時間以内の利用であっても同額となります。
- 2 食事の提供は、食堂の稼働日に限ります。なお、簡単な食事の準備・後片付けは各団体で行っていただきます。また、食堂稼働日は弁当の持ち込みや仕出し業者の利用はできませんのでご注意ください。
- 3 合掌御膳は10名～50名まで提供可能です。ぜひお召し上がりください（施設の都合によりご利用いただけない日があります）。
- 4 施設及び設備の利用時間を15分以上超過した場合は、「1時間あたり」の金額を加算いたします。
- 5 真宗大谷派の関係団体については、施設の利用にかかる協力金の1割を免除いたします。また、「真宗大谷派学校連合会」加盟校・「公益社団法人大谷保育協会」加盟園の利用については、協力金の上限を1日あたり10万円とします。なお、設備及び食事の割引はありません。
- 6 施設の利用にあたっては、お申し込み後であっても真宗本廟奉仕や宗派主催の諸研修での使用を優先させていただきます。いただく場合がありますので、あらかじめご了承ください。

2024年度

宗派経常費御依頼額収納の御礼

宗務総長 木越 渉

2024年度宗派経常費御依頼額につきましては、全国の寺院・教会を取り巻く環境は依然として厳しい状況であります。皆様からは、「法義相続」・「本廟護持」の篤いご懇念をお運びいただき、総御依頼額50億2,018万円に対し約54億2,603万円、率にして108.0%の収納を賜りました。

また、令和6年能登半島地震及び令和6年奥能登豪雨により被災された能登教区からも教区御依頼額をご完納賜り、昨年度においても、全教区より御依頼額を完納いただきました。

これも、ひとえに各寺院住職・教会主管者、坊守及び門徒並びに関係各位の宗門活動へのご理解とご尽力の賜物であり、内局一同、厚く御礼申しあげる次第であります。

ここに深甚の謝意を申しあげますとともに、今後も真宗大谷派の展望を開く歩みを確実にすべく、同朋会運動を推進する宗門として教学振興、教化推進に尽力してまいります。

なお、各教区の収納結果について、左記のとおりご報告いたします。

2024年度 宗派経常費御依頼額 及び 収納額教区別一覧

2025年6月30日現在

教区	御依頼額	収納額	収納率(%)	御依頼 寺院数	完 納 寺院数	完納寺院率 (%)
北 海 道	467,340,000	546,920,347	117.0%	460	455	98.9%
東 北	271,620,000	283,649,942	104.4%	407	401	98.5%
東 京	532,810,000	544,057,350	102.1%	476	466	97.8%
新 潟	331,360,000	347,354,271	104.8%	702	688	98.0%
富 山	237,480,000	252,781,570	106.4%	450	440	97.7%
能 登	24,850,000	29,270,885	117.7%	162	159	98.1%
金 沢	158,310,000	172,721,585	109.1%	308	296	96.1%
小松大聖寺	109,820,000	110,707,789	100.8%			
福 井	104,310,000	111,237,516	106.6%	204	193	94.6%
岐 阜 高 山	184,230,000	209,251,143	113.5%	310	301	97.0%
大 垣	130,360,000	171,876,546	131.8%	404	383	94.8%
岡 崎	340,990,000	367,723,246	107.8%	420	356	84.7%
名 古 屋	578,690,000	608,772,200	105.1%	661	502	75.9%
三 重	98,210,000	112,906,200	114.9%	211	211	100.0%
京 都	291,840,000	354,385,374	121.4%	1,059	1,041	98.3%
大 阪	381,930,000	396,071,071	103.7%	627	595	94.8%
山 陽	140,510,000	145,990,777	103.9%	249	244	97.9%
四 国	70,690,000	71,638,500	101.3%	104	102	98.0%
九 州	564,830,000	588,714,892	104.2%	783	780	99.6%
合 計	5,020,180,000	5,426,031,204	108.0%	7,997	7,613	95.1%

※小松大聖寺教区は世話方による募財体制のため、完納寺院数には含まれておりません。

身元調査は、しない！させない！ゆるさない！

「身元調査お断り・過去帳閲覧禁止運動」の再確認を！

解放運動推進本部

「身元調査お断り」プレート

身元調査は、しない！させない！ゆるさない！

身元調査お断り

真宗大谷派

(写真1)

一九八四年、同和推進本部(当時)から、各教務所を通じて「身元調査お断り」プレート(『同和問題』にとりくむ宗教教団連帯会議製作)をお届けし、寺院・教会の門前や玄関など、良く目につく場所への掲示をお願いしました。二〇一三年七月には、宗派が新たに「身元調査お断り」プレート(写真1)を製作し、全寺院・教会に配付しました。

また、一九八八年、それまで過去帳閲覧禁止の帯封をお届けしていたものをステッカー(写真2)に替え、過去帳への貼付をお願いしました。

寺院・教会の門前や玄関に「身元調査お断り」プレートが掲示されているか、また過去帳等に「閲覧禁止」ステッカーが貼付されているかを、あらためてご確認ください。

過去帳を利用した身元調査

当派が身元調査お断り・過去帳閲覧禁止運動に取

り組むようになったのは、難波別院輪番差別事件を契機とした部落解放同盟による一九七一年六月の第六回糾弾会において、宗派内三寺院が興信所に過去帳を閲覧させたという指摘が機縁です。同年十二月の第八回糾弾会では、さらに各寺院・教会における過去帳の取り扱いについて、厳しく問われました。

一九六八年に戸籍が全面閲覧禁止になってから、興信所や探偵社による問い合わせという手段で、過去帳が身元調査に利用され、結婚差別や就職差別に関わる深刻な問題を引き起こしてきました。被差別部落の若い人々の前途が無残に断たれたり、時には、尊い人命が奪われるという事件が起きています。

聞き合わせと家系図調べ

身元調査は、興信所や探偵社によらず、相手方の関係する人や団体に対して、個人によって直接行われることがあります。

「聞き合わせ」と称されるこの調査は、寺院や教会に対して行われることが多いのです。例えば、結婚相手の手次ぎの寺院へ、相手の家柄や素行等を確かめるというものです。しかし、ともすれば聞く方にも寺院側にも、身元調査を行っている意識は少なく、気づかないまま人権を侵害することになりかねません。「聞き合わせ」は身元調査であり、寺院・

教会として、はっきりとお断りするように願ひし

ます。

また、最近では、住職が過去帳を他人に開示して家系図調べを行ったり、その行為における問題性への指摘に対し、部落差別問題への取り組みを阻害し、誹謗する発言が生じています。

聞き合わせも家系図調べも、家柄や家格などの門地(出生によって生じる社会的地位)や、世系(祖先から受け継いだ系統・血統)の優劣をつけることに結び付くこととなり、結果として被差別部落を排除・差別する身元調査にほかならないのです。

過去帳の意義

過去帳は、有縁の人が亡き人をご縁に如来のみ教えに値遇されるため、寺院・教会に所属するご門徒の仏弟子たる名のりが記された法名帳です。したがって、過去帳に記載される事項は、それ自体が、門徒寺院・教会、宗派にとって大切な情報であり、宗教的意義以外の目的に決して利用されてはなりません。そして、過去帳には、法名・住所・俗名・帰敬式受式年月日・死亡年月日の内容以外は記載すべきではありません。過去帳にいかなる差別もあつてはならず、差別記載を許さない過去帳を今後も作つていかなければなりません。

過去帳の閲覧を求められる場合

過去帳に記載されている内容は、ご門徒の個人情報であり、その漏えいは人権侵害となります。過去帳を直接開示せず、口頭で応えることも、相手に過去帳を閲覧させていることと同じです。しかし、各寺院・教会に所属するご門徒が、自らの祖先を確認する場合は、住職・教会主管者が確認して、該当する内容のみを口頭で応えていただくようお願いいたします。

さらには、各寺院・教会に対し、過去帳に記載の判別し難い文字の解説や、記載情報の整理・データを謳う業者によって、過去帳を整備するという営業が行われているとの事例が報告されています。過去帳そのものを外部の業者に委託することも、過去帳を第三者に開示・閲覧させる行為にあたります。住職・教会主管者は、その責任において過去帳を整備・保管することは当然のことですが、第三者に開示・閲覧させることは、住職・教会主管者個人の判断によるものではなく、宗務総長の許可が必要となります。

過去帳が名簿やリストに

近年、全く知らない会社（個人）からダイレクトメールや電話で、商品購入の勧誘があることを耳にしますが、さまざまな名簿やリストが当人の知らないところで売買されている現状があります。

過去帳や門徒名簿に記載される内容は、宗派以外の者にとっても利用する価値のある情報と考えられます。現実には起きている過去帳閲覧の事例から考えて、歴史、行政（税務調査等）、個人や集団の特定、営利（営業利用等）、身元調査等さまざまな利用される可能性があります。

身元調査でなければ良いのか

身元調査に利用されさえしなければ、第三者に過去帳を見せなくてもいいのではないかと考えてしまいがちですが、いずれの目的にも過去帳等の情報が利用されてはなりません。当然、差別記載が一切なくとも、また被差別部落のご門徒と関わりのない寺院・教会の過去帳等であっても同じことです。

いかなる理由であれ、過去帳及び門徒名簿が安易に閲覧される状況は、ご門徒のプライバシーが顧みられていないこととなります。さまざまな事情により故郷を隠している人々にとっては、自分の身元が漏れる不安に常にさらされていることなのです。過去帳や門徒名簿の閲覧禁止は、嚴重になされなければならず、データで管理されている場合においても情報の漏えいにはくれぐれもご注意ください。

「閲覧禁止」ステッカー



(写真2)

税務調査

宗教法人法第八十四条には、国及び地方公共団体の機関が、宗教法人の調査をする場合、「信教の自由を妨げることがないように特に留意しなければならない」とあります。また、宗教者が職務上知りえた個人情報情報を漏らすことは守秘義務違反を問われ、

刑法一三四条二項（秘密漏示罪）のもとで処罰の対象となります。

税務調査の際に、寺院・教会の収入等を裏付ける資料として、税務署員が自身の「職務上の守秘義務」を理由に、過去帳の閲覧を求める場合がありますが、宗教的意義を持つ過去帳を税務調査等に利用することは許されません。税務調査には収支計算書等の会計に関する備付帳簿を整備して応えるべきです。

身元調査お断り・過去帳閲覧禁止の徹底を

二〇〇五年、真宗大谷派同和関係寺院協議会が実施しました「真宗大谷派における部落差別問題実態調査」では、「身元調査お断り」プレートを掲示している寺院は三十九・二パーセント、過去帳等に「閲覧禁止」の帯封またはステッカーを貼付している寺院は四十二・六パーセントにとどまり、当派における身元調査お断り・過去帳閲覧禁止運動の取り組みが十分でないことを示しています。

この調査結果を踏まえ、本運動の取り組みをさらに進める必要があります。運動の趣旨をお汲み取りいただき、あらためて身元調査お断り・過去帳閲覧禁止の徹底をお願いします。

「お問い合わせ先」 解放運動推進本部

TEL..075-1371-9247
FAX..075-1371-6171

※秘密漏示罪：宗教、祈祷若しくは祭祀の職にある者又はこれらの職にあつた者が、正当な理由がないのに、その業務上取り扱ったことについて知り得た人の秘密を漏らしたときは6か月以下の懲役又は10万円以下の罰金に処する

本廟部・参拝接待所

〒600-8505 京都府京都市下京区烏丸通七条上る常葉町754番地
TEL.075-371-9210 (本廟部・参拝接待所) FAX.075-371-9204

2025年「御正忌報恩講」参拝のご案内

本年も真宗本廟において、11月21日の「御正忌報恩講讚仰法要（音楽法要）」に始まり、21日初逮夜から28日結願日中まで「御正忌報恩講」が厳修されます。

真宗門徒にとって最も大切な仏事である報恩講に、有縁の皆様をお誘い合わせの上、ぜひご参拝くださいますようご案内申し上げます。

**【申込締切】 2025年10月31日(金) 午後5時まで**

※受付は各日午前9時から午後5時までです。

※お齋・お弁当(次頁参照)を申し込む場合、食数に限りがありますのでお早めにご連絡ください。定員になり次第締め切ります。

【申込方法】 下記のいずれかの方法で本廟部参拝接待所へ直接お申し込みください。

【TEL】 申込要項の内容をお伝えください。

【FAX】 宗派ウェブサイトより申込書をダウンロードしてご利用ください。

【WEB】 宗派ウェブサイトの特設フォームでお申し込みください。

申込書及びお申し込みフォームはこちら➡



※参拝のお申し込みをいただきました団体または個人には、報恩講参拝の記念品をご用意いたしますので、公共交通機関でお越しの方や少人数の方、お一人からでもぜひお申し込みください。

※バス・乗用車の駐車をご希望される場合は必ずお申し込みが必要となります。

【参拝申込要項】**1. 申し込みに際して****(1) 申し込み時にお知らせいただく必要な事項**

- ①参拝日 ②参拝される法要（〔例〕日中） ③到着時刻・出発時刻 ④団体・個人名称
⑤引率責任者氏名・連絡先電話番号 ⑥参拝人数 ⑦お齋申込の有無 ⑧お弁当申込の有無
⑨帰敬式受式の有無 ⑩涉成園参観の有無 ⑪交通手段（バス・乗用車台数）
⑫大谷祖廟参拝の有無

(2) 申し込み後に、到着・出発時刻、参拝人数、バス・乗用車駐車等に変更が生じた場合は、必ず本廟部参拝接待所にご連絡ください。

(3) 11月中旬を目途に、引率責任者へ案内状・参拝確認書・駐車ステッカー等を送付いたします。
※申し込み期間後に変更された内容については参拝確認書に反映されませんので、ご承知おきください。

2. バス・乗用車の駐車について

- (1) 団体・個人参拝申し込みをされたバス・乗用車のみ、指定場所に駐車できます。駐車を希望する場合は必ず申し込みをしてください。また、申し込まれた団体・個人には駐車ステッカーを送付します。
- (2) 駐車ステッカーは、表示内容が確認できるよう、バスの場合は車両の前面（フロントガラス）及び側面（ガラス面）に、乗用車の場合はダッシュボードに必ず貼付ください。ステッカーの掲示がない場合は駐車できません。
- (3) 駐車場では係員が誘導・整理を行います。乗降場所については、係員の指示に従ってください。

3. 報恩講のお齋について

報恩講の「お齋」は、全国各所より御同朋が食材を持ち寄り、宗祖のご遺徳を偲びつつ、厳粛にいただく御仏事として永く執り行われています。

本年も、お申し込みいただいた皆様に、一膳のお齋から浄土真宗の歴史を味わっていただくことを願いとし開催いたします。

- (1) 期 間：11月21日(金)～28日(金)

時 間	21日(金)	22日(土)	23日(日)	24日(月)	25日(火)	26日(水)	27日(木)	28日(金)
1回目			11:40	11:40	12:10	11:40	11:40	12:50
2回目	12:10	12:10	12:40	12:40		12:40	12:40	

※帰敬式を受式される方は2回目にお申し込みください。

- (3) 定 員：各回120名（全席椅子席）
- (4) 会 場：大寝殿または表小書院
- (5) 内 容：報恩講「お齋」〔お齋・けんちん汁・お手土産など〕
- (6) 冥 加 金：お一人 4,500円



お齋(イメージ)

- (7) 特記事項：定員になり次第締め切ります。会場はお選びいただけません。

空席がある場合に限り当日券をご用意いたします。

ご予約日の前日12時以降の人数変更及びキャンセルはできませんので、予めご了承ください。

4. 昼食弁当

報恩講期間中に参拝された方々への昼食として、お弁当（1食2,000円・お茶付）をご用意いたします。会場は「しんらん交流館」または「和敬堂」（最大70席・会場指定不可）です。ご希望の場合は、5名からお申し込みください。なお、受け入れ人数に限りがありますので、定員になり次第締め切ります。

- (1) 期 間 11月21日(金)～28日(金)
- (2) 時 間 11時～13時
- (3) 料 金 2,000円
- (4) 会 場 しんらん交流館すみれの間（20名）／和敬堂講義室（50名）

	21日(金)	22日(土)	23日(日)	24日(月)	25日(火)	26日(水)	27日(木)	28日(金)
しんらん交流館	○	○	○	—	—	—	—	—
和 敬 堂	○	○	○	○	○	○	○	○

※会場は、時間・人数を調整して振り分けますのでご指定いただけません。

※申込時に会場をお伝えしますが、都合により、その後に会場を変更させていただく場合がございます。予めご了承ください。

5. 帰敬式について

- (1) 帰敬式は、21日の讃仰法要後、22日～27日の日中法要後、御影堂において執行されます。ただし、28日は執行されません。
- (2) 住職選定法名及び団体による受式については、「帰敬式受式者届」を受式日の1ヵ月前までに直接、本廟部参拝接待所へご提出ください。
- (3) 受式当日、本廟部参拝接待所で9時30分までに受付をお済ませください。
- (4) 帰敬式終了予定時刻は正午前後となります。

6. 注意事項

- (1) 各法要の開式時間にご留意ください。
- (2) 参拝時に体調を崩された場合は、お近くのスタッフにお声がけください。
- (3) 法要中の写真や動画の撮影はご遠慮ください。
- (4) 時間に余裕を持った計画を立てられるようお願いいたします。
- (5) ご参拝の際には、ご門徒に肩衣(豊肩衣・略肩衣)を着用いただくよう奨励ください。
- (6) 真宗本廟収骨・永代経・御影堂読経はお取り扱いがありません。
※参拝接待所(地下仏間)での読経はお取り扱いがあります。
- (7) 行事等で諸殿を使用しているため、諸殿案内はできません。
- (8) 法要途中での退席はなさらないようお願いします。
- (9) 涉成園にもぜひご参観ください。(11月の参観時間は9時～16時 ※15時30分受付終了)

【お問い合わせ】 本廟部参拝接待所

TEL: 075-371-9210 (9時～17時) FAX: 075-371-9204

E-mail: honbyo@higashihonganji.or.jp

真宗大谷派ウェブサイト <https://www.higashihonganji.or.jp/>



涉成園のご案内

四季折々に美しさを見せる涉成園ですが、特に報恩講の季節には楓、銀杏などが色づき、より一層その趣を高めています。

御正忌報恩講のご参拝とあわせて、涉成園にもぜひご参観ください。



涉成園について、詳しくはこちらをご覧ください→



涉成園Instagram→



青少幼年センター

〒600-8164 京都府京都市下京区諏訪町通六条下る上柳町199番地 真宗教化センター しんらん交流館
TEL.075-354-3440 FAX.075-371-6171帰敬式が
受式できます2025年 御正忌報恩講
「子ども報恩講のつどい」

はじめての報恩講 ー東本願寺で子ども会ー

「子ども報恩講のつどい」は本年14回目を迎えます。テーマは〈はじめての報恩講ー東本願寺で子ども会ー〉として開催しています。このテーマには「子ども報恩講のつどい」を機縁として、はじめて報恩講にお参りいただきたいという願い、さらに毎年の“例時”としての報恩講を常に“初事”として勤めていきたいとの思いが込められています。

ぜひ、ご家族やご友人等お誘いあわせの上、報恩講にお参りくださいますよう、ご門徒各位にご奨励ください。

- 1 期 日 2025年11月23日(日・祝)
- 2 会 場 御影堂・阿弥陀堂・同朋会館・和敬堂
- 3 お 話 乾 文雄氏(大谷中学・高等学校長)
- 4 参加費 500円 [記念品・精進カレー]
- 5 定 員 250名(先着順)
- 6 参加対象 12歳までのお子さま、保護者・引率者
※乳幼児の方のご参加については、必ず保護者同伴でお願いします。
- 7 申込方法 右記申込フォームよりお申込みください。フォームからの申込が難しい方は、青少幼年センターまでお電話にてお問い合わせください(TEL:075-354-3440)。  **申込フォーム**
- 8 申込期間 2025年9月1日(月)9時～10月31日(金)17時
(定員になり次第締め切らせていただきます)



- 9 当日受付 子ども参拝案内所(境内白洲) 10時30分～12時15分
- 10 持参品 念珠・あかほんくん勤行集(お持ちの方)
- 11 帰敬式 「子ども報恩講のつどい」をご縁としてぜひご受式ください。
受式礼金 お一人20歳以下5,000円(21歳以上10,000円)
受式を希望される場合は青少幼年センターまでお問い合わせください。
TEL:075-354-3440 E-mail: oyc@higashihonganji.or.jp

- 12 日 程 (予定) 10:30 受付開始(子ども参拝案内所:境内白洲)
12:00 ちかい・アイスブレイク(阿弥陀堂)
12:20 お勤め・お話(乾氏)(御影堂)
13:00 お齋(精進カレー)(和敬堂)
14:00 ゲーム・人形劇(山添真寛氏)(同朋会館)
15:00 解散

※日程は都合により変更となる可能性があります。

- 13 留意事項 当日の御影堂の様子はYouTube「真宗大谷派公式チャンネル」にてライブ配信されます。
- 14 その他 報恩講期間中の11月23日(日・祝)、24日(月・祝)、28日(金)は、境内白洲にて「子ども参拝案内所」も開設しておりますので、ぜひお立ち寄りください。

本廟部 式務所

〒600-8505 京都府京都市下京区烏丸通七条上る常葉町754番地
TEL.075-371-9188 FAX.075-371-92052025年 御正忌報恩講・御正忌報恩講讚仰法要（音楽法要）
出仕要項

11月21日(金)から28日(金)まで厳修されます御正忌報恩講、21日(金)の御正忌報恩講讚仰法要（音楽法要）に出仕を希望される方は、下記要項をご参照の上、別紙出仕願（本誌巻末綴じ込み）をご提出ください。

1 出仕願について

- 出仕を希望される方は、本誌巻末綴じ込みの出仕願を、所轄の教務所を經由して本廟部（式務所）に提出してください〔10月31日(金)必着〕。なお、願書が不足の場合は最寄りの教務所へお問い合わせください。
- 法臈加算のための出仕証明が必要な方は「有」に○を、必要のない方は「無」に○をしてください。
- 法臈加算申請のための出仕証明書は、予定されている出仕の最後にご本人に手交いたしますので、必ずお受け取りの上お帰りください。
- 出仕を希望される方は必ず提出期限を守ってください。
- 出仕を希望する法要に必ず○をつけてください。

2 出仕について

- 改着場所 男性：式務所1階南・北大広間 女性：式務所1階北小間
※改着場所にて装束着用後、出仕控室（式務所2階北大広間）で出仕点検を受けてください。

(2) 刻限・集合時刻・装束

①御正忌報恩講讚仰法要（音楽法要）

	法要刻限	集合時刻	装束
21日	10：00	9：20	裳附・五条袈裟・差貫

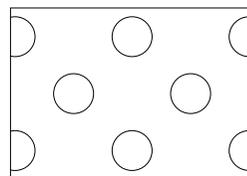
②御正忌報恩講

		法要刻限	集合時刻	装束
21日 （ 28日	逮夜	14：00	13：20	裳附・五条袈裟 (21日、24日、27日は裳附・五条袈裟・差貫)
	晨朝	6：50 (28日は6：30)	6：30 (28日は6：10)	色直綴・五条袈裟 (28日は裳附・五条袈裟)
	日中	10：00	9：20	裳附・五条袈裟・差貫

3 装束について 出仕の際には、下記制限をご留意いただき、正規のものをご準備ください。

《五条袈裟について》

- 地合は、堅地、綾地及び平織とする。
- 色目は、萌黄、紫、その他許可された色（正銀色、長春色など）一色とする。
- 文様は、無地とする。ただし、金入に限り、平金一色を用いることができる。
- 紋径は、7糎（センチメートル）乃至9糎とする。
- 2種類以上の紋を使用することはできない。
- 紋を重ねたり、連続紋とすることはできない。いわゆる釜抜、一ツ抜紋、居並びとすることはできない。ただし、褒賞衣体を除く。
- 別に許可せられたものは、小紋とすることができる。この場合、八藤紋に限ることとし、④の制限を除く。
- 寺紋・家紋は、紋白に限る。



釜抜（一ツ抜）

《白服・白足袋等》

- 白服は、皆白のこと。縹子、唐縹子、縮緬等は着用できない。
- 足袋は、白襪子又は白足袋のこと。小鈎のあるものに限る。③帯は、白帯に限る。

4 法臈加算手続きについて

法臈加算を受けるためには、出仕願（裏面）の要項をご参照の上、別途教務所へ申請ください。

5 得度受式者及び住職・教会主管者就任者への出仕講習会について ※詳細は本誌29頁をご確認ください。

11月23日(日)の逮夜法要前に、2020年7月1日～2025年6月30日に得度式を受式された方並びに住職・教会主管者に就任された方を対象として、出仕作法や衣体改着についての講習会を行います（先着30名）。

6 その他

- 期間中は、自家用車の境内での駐車はご遠慮ください。
- ご不明な点は、教務所までお問い合わせください。

本廟部 式務所

〒600-8505 京都府京都市下京区烏丸通七条上る常葉町754番地
TEL.075-371-9188 FAX.075-371-9205

2025年 得度式受式者及び住職・教会主管者就任者への 出仕講習会開催要項

御正忌報恩講期間中の11月23日(日)の逮夜法要前において、過去(2020年7月1日～2025年6月30日)に得度式を受式された方並びに住職・教会主管者に就任された方を対象とした、出仕作法や衣体改着についての講習会を下記のとおり開催いたしますので、万障繰り合わせの上ご参加くださいますようお願い申し上げます。

- 1 期 日 2025年11月23日(日)
- 2 対 象 得度受式者、住職・教会主管者
※2020年7月1日～2025年6月30日に得度、住職・教会主管者に就任された方
- 3 会 場 式務所、研修道場など
- 4 募集人数 30名(先着順、定員に達し次第締め切ります。)
- 5 募集期間 2025年9月1日(月)～2025年10月31日(金)
- 6 装 束 裳附・五条袈裟・中啓・半装束念珠
- 7 日程(予定) 11:30 受付
11:50 開会(予定)
13:30 閉会(予定)
- 8 申込方法 宗派公式ウェブサイトから「出仕講習会 申込書」をダウンロードし、申込書に必要事項をご記入いただき、郵送またはFAX、メールにて本廟部式務所までお申し込みください(※後日申込者へ、日程詳細等についての通知を送付いたします)。
- 9 そ の 他 (1) 対象者へは本廟部(式務所)より、直接案内を送付しております。上記要項を必ずご確認の上、お申し込みください。
(2) 各法要へ出仕される場合は、別途出仕願を提出してください(※本誌28頁参照)。なお、講習会終了後、そのまま逮夜法要へ出仕することも可能です。
(3) 未成年者(18歳未満)受講に限り、付添人1名帯同いただけます。
(4) 境内における自家用車の駐車はご遠慮ください。
- 10 お問い合わせ 本廟部式務所
〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る常葉町754番地
TEL: 075-371-9188(平日9時～17時) FAX: 075-371-9205
mail: honbyo@higashihonganji.or.jp

ハンセン病はいま

331

解放運動推進本部

真宗大谷派ハンセン病問題に関する懇談会（「ハンセン懇」）では、全国を三ブロックに分けてハンセン病回復者や支援者との交流を中心に活動する「連絡会」を組織しています。今月号では、九州・沖縄を担当する第三連絡会が開催した学習会の取り組みから、第三連絡会委員の福田了樹さんに、沖縄におけるハンセン病問題や、自身が考えるハンセン病問題のこれから課題をご執筆いただきました。

過去から現在、そして未来へ

九州教区善證寺 福田了樹

二月二十日から二十一日、ハンセン病問題に関する懇談会（「ハンセン懇」）第三連絡会主催の学習会を、九州教区の解放推進協議会ハンセン病問題部に協力いただき、熊本県で開催した。一日目は熊本教務支所にて、沖縄開教本部長兼沖縄別院輪番・「ハンセン懇」委員の長谷暢氏に「沖縄特有のハンセン病問題」と題してお話いただいた。二日目は菊池恵楓園歴史資料館や、強制収用の舞台となった本妙寺、キリスト教の方々が献身的に携わられたリデル、ライト両女史記念館や待労院資料館など、熊本のハンセン病にゆかりの

ある場所のフィールドワークを行った。一日目の長谷氏からの講義では、ハンセン病問題と沖縄における問題、いわゆる「沖縄問題」を考えるにあたっての「問題」の所在ということ話を話された。ハンセン病問題とは、ハンセン病患者が問題なのではなく、ハンセン病を通して引き起こされた差別問題であり、「沖縄問題」についても、沖縄が問題なのではなく、沖縄が背負わされている様々な問題を言い表しているということだった。お話の最後には、「沖縄特有のハンセン病問題は、琉球・沖縄の歴史と「沖縄問題」に深く起因

しており、この二つの「問題」はいずれもその当事者の問題ではなく、この社会を構成する一人ひとりと社会の課題である」と述べられた。

そもそも、私たちは沖縄について何を知っているのだろうか。沖縄戦の深い傷跡を学ぶ機会があっても、それ以前の沖縄の歴史や生活について詳しく知ることなどあまりなかった。「琉球王朝の王様の名前を一人でもご存知ですか？」という長谷氏の言葉に対し、誰一人思い浮かばないような有様である。一八七九年、琉球藩は「琉球処分」により沖縄県へと改称され、日本に統合されるが、統合と言いつつも支配下に置き、琉球の権力者たちの力を削いでいくのが狙いであった。したがって、琉球国民を下等に扱おうような流れが出来上がってしまったのである。

そして、最大の被害となったのが太平洋戦争であり、一九四五年、日本で唯一の国内地上戦となった沖縄戦である。犠牲者が二十万人を超える、悲惨な戦争であった。一九五二年には講和条約が結ばれて日本本土の主権は回復したものの、沖縄は切り捨てられたままアメリカの政権下にあった。一九七二年、沖



長谷氏による講義(2月20日)

縄の施政権返還が正式に認められ、沖縄は日本に「復帰」することとなるが、その間に背負わせた歴史、また今なお残る米軍基地の問題や婦女暴行の問題など、「沖縄問題」は山積みのみである。

では、沖縄特有のハンセン病問題とはいかなるものか。私は、アメリカの統治下にあった沖縄ではプロミンなどの医療的措置を日本より先に受けられ、高度な医療も受けられていた、という印象を持っていたのだが、実際は全く違うものだった。沖縄はハンセン病患者が多い地域であると言いが、そのような地域でありながら、医師や看護師が少ないことや、ハンセン病患者に対する忌避感はとて強いものがあったと思う。特に無らい県運動は盛んに行われ、学校の身体検査でハンセン病を疑う症状が見つかれば収容されていたほどだ。それはアメリカ統治下においても変わることはなかった。沖縄住民の依頼により、小屋にいたハンセン病患者に対してアメリカ

兵が銃殺を行ったり、隔離は当たり前に行われていたという。そうしたことで、沖縄の療養所は定員をはるかに超えることとなり、少しでも快復したら退所させる軽快退所の措置が取られる。このことについて長谷氏は、「差別が渦巻く社会の中へはだかで放り出された」と表現されていた。そこに沖縄に背負わせたアメリカ軍に関する問題も相俟って多重に苦しみを与えてきてしまったのである。

このことは現在にも続く問題として受けとめなければならぬ。それはハンセン病家族国家賠償請求訴訟においても顕著に見られる。家族訴訟に勝訴し、補償金制度への申請は二万件を越す見通しであったが、未だに六千人の申請で止まっているという。原告五六一人中、約四割が沖縄在住の方である。退所者が多いということは、その家族も多いということであり、申請をされていない方の中には家族や周りに知られたくない、迷惑をかけたくないという思いを持ち続けておられる方がいるのである。

私自身、ハンセン病問題に関わりはじめて十五年ほどになる。これまで九州にある療養所を訪問し、入所者や退所者の方々とお話しする機会も多々あったが、みな笑顔で当時のことを語ったり、世間話をしてくださる。その笑顔が出るまでにはどれほどの苦しみや悲しみがあったのか。また、その笑顔の奥に抱えておられる今も消えぬ痛みに対し、私たちが

できることは何なのか。常に問われ続けているように思う。

現在、菊池恵楓園の周りでは土地開発が広く行われている。園の周りも訪れるたびに変化しているほどだ。以前、恵楓園を訪れた際に入所者の志村康さんは、「今の地域の変化は恵楓園にとって危ない状況である。国はいずれ療養所を無くすような動きをしてくるだろうから、歴史資料館と納骨堂だけは残してほしい。あなたたちには自分の五十回忌まではお参りをしてほしい」と話されていた。志村さんも今年の五月に亡くなられ、これが私が聞いた最後の言葉となった。長い間、国やハンセン病問題と闘い続けてこられた志村さんから、これまでハンセン病を通して引き起こされた皆さんの問題と出来事を忘れないでほしい、そして同じ過ちを繰り返さぬよう伝え残していつてほしいと、大谷派に向けて投げかけられた切実な願いであると思う。この志村さんの言葉は、「継続から継承」へと歩み始める「ハンセン懇」への大きな道標になるのではないか。

今回の学習会を通して、ハンセン病によって引き起こされた問題の根深さと、次の世代へと受け渡していく責任の重さを感じた。ハンセン病問題は社会や私たち一人ひとりの問題であるということを念頭に、これまで培われてきた灯を絶やさぬよう、これからも自身の課題として歩み続けていきたいと思う。

青少幼年センターニュース

青少幼年センター

ホームページ <https://jodo-shinshu.info/oyc/>

YouTube 青少幼年センターチャンネル



「仏青づくり研修会 in 東北」開催

四月九日、十日の二日間、盛岡市の岩手真宗会館を会場に「仏青づくり研修会 in 東北」が開催されました。

私たち大谷派仏教青年同盟は

- 一、仏教を自明のものとせず、足下の現実と対決する中で教えに聞いていく。
- 二、大谷派教団にいのちを回復する同朋会運動の中核となる。
- 三、全国の仏青活動と連絡提携を保ち、仏青運動を促進する。

という三つの使命をもとに志を同じくする仲間が集う「同盟体」という形で活動しています。特に同朋会運動の中核を担うという点において、「生活の場でのふたりから」はじめめる青年会(単位仏青)の開設を願う」ということ、またその中心に「語り合い(座談)」を据えて活動していくことを何よりも大切にしています。全国各地でこの願いを共有し、また青年会の主催者となる方々を生み

出していくため、十五年ほど前から各教区において現地青年層の方々と協働しながら「仏青づくり研修会」を展開してまいりました。

■新教区体制での新たな挑戦

今回は改編教区として新たな一歩を踏み出した東北教区仏教青年会より、「旧教区の域を超えた活動ができないという現状を打破すべく、東北で仏青づくり研修会を開催してほしい」という声をいただき、一年間の準備期間を経て、互いに顔を合わせ、協議を重ねた上で盛岡の地で開催する運びとなりました。今回のテーマは「ねえ、あつてる？」でしたが、改めて人と本当に出会うこと、教えと出会うこと、そしてその喜びを語ることで分かち合うということを願ってのものでした。当日は東北各地をはじめ全国から二十数名の参加があり、青年会活動への期待や、「若者の集う場を開きたいが、具体的にどうして



太田氏による講義

いいのかわからない」という悩みなど、様々な思いを持つ方々が集われました。

講義は太田宣承氏(東北教区碧祥寺住職)より、「一人十色の人生観と共に生きること」とい

う講座でお話いただきました。過疎や豪雪という厳しい条件のもと、寺が主管となって運営されている特別養護老人ホームに加え、地域の人々と中高生が一堂に会し、西和賀地域の未来やいのち、生き方について考える青年会「寺子屋」を開かれてきた先生のお話では、ご自身の歩みにふれながら「現代人にとって、お寺とは背負った心の荷物を下ろす場所」であり「目の前の人の裏側や奥底に



パネルディスカッションの様子

何があるのかという想像力を膨らませていくのが仏青の座談。「人々の悩みや苦しみ、解決しようのない問題から逃げずにそばにいられるかということが僧侶の間われていることである」「聖空間であるお寺という場所には場の力があり、仮に私自身がいなかったとしても、その場に足を運べ、心の荷物を下ろし、また背負い直して日常に帰っていきける場所と、なるということが大切なのだと思います」と、青年会、そして「寺」という場の意義をお伝えくださり、参加者一同もお話に深く共鳴していました。

その後の班別座談では、初めて顔を合わせの方々がほとんどであったにもかかわらず、先生の講義内容についてのみならず、自分の現場や日常生活を通じた悩みなど、語り合いが尽きることはなく、所定の時間を過ぎても

「時間が足りなかった」もなかった」も少し話したかった」という声が聞かれました。

当研修会は同盟のいのちとして座談の「語り合い、聞き合う」という魅力を感じて体験して

いただくため、日程中、講義の倍の時間を座談に割いているという点が非常に特徴的であると云えます。その意味において、各班での座談が活発になされたということが開催の願いを体現する上で非常に意義深いものだったと思います。

■若者が集う場を創造する

また、当研修会のもう一つの特徴であるパネルディスカッションは、青年会を主催している僧侶側だけでなく、参加者として青年会に参加されている方をパネラーとしてお招きし、お話を聞かせてもらうという場になっています。ご自身の青年会との出会いや、今まで参加し続けている理由などを交え、青年会の魅力や、時には寺や僧侶に対する叱咤激励など、普段自分たちだけではなかなか気づかないような多様な提言をいただくことができます。

今回は阿部煌さん（東北教区徳泉寺）、小原冬美さん（東北教区碧祥寺）のお二人に登壇いただきました。高校生の阿部さんは、「色々なことがあって立ち止まることもあったが、同世代の人たちが集う青年会の存在が自分の居場所になって救われた。若者の集う場を作ってください。その場を自分の居場所として生きる力にしていく人が必ず生まれてきます」と、場を開くことの大切さを語られました。また、一般家庭のご出身で昨年得度された小原さんからは、「家族との死別とい

う出来事を住職さん、お寺との出会いによって、悲しみだけではない受け止めをすることができた。お寺に来てもらうことを待つだけではなく、お寺を一步出て、一人の人として出会ってください」という、「寺」、青年会に対する熱い期待を込めたメッセージがあり、その思いを受け止め、今後の活動の原動力としていこうとする姿も参加者の中に見受けられました。

二日目の講義、班別座談を経ての全体会では、参加者一人一人がこの研修会から受け取ったものを発表しました。最後に開催地である東北仏青の本澤盛正会長から、「今回出会った中で受け取ったエネルギーや熱を原動力として、『開けたらいいな』ではなく、各々が一歩踏み出して開く』という力強い決意表明があり、二日間にわたる研修会が幕を閉じました。

今回の研修会では、改めて場の力、語り合うことの楽しさ、求めている人の期待、そして一人と向かい合う中で生まれてくる熱を東北の皆様と確かめ、分かち合うことができました。この研修会がきっかけとなり、生活の場で座談を中心とした青年会活動の輪が広がっていくことを念願せずにはいられません。今年度末には、福島の地で今回の東北、前回の茨城の方々と共に仏青同盟大会を開催する予定です。多くの皆様の参加を心よりお待ちしております。

（天谷派仏教青年同盟副委員長・金 暁正）

児童教化のページ

シリーズ 真宗大谷派における児童教化

—子どもたちとともに、今までもそしてこれからも—

ち か い

- 一、私たちは、仏の子どもになります。
- 一、私たちは、正しいおしえをききます。
- 一、私たちは、みんな仲よくいたします。

大谷派児童教化連盟

592

児童教化連盟指導者研修会(山形)の学びについて

東北教区山形第2組皆龍寺 榊 法盡

「児童教化の実を挙げる」ということを目的として、東北の教区改編を機に、旧山形教区児童教化連盟(以下、山形児連)は有志による山形地区児童教化連盟(以下、地区児連)として再結成しました。それは、「まずは山形に児童教化を発信する」という思いからでした。

これまでの山形児連は、事業が終わった後には反省会などはしていたものの、事業を「こなす」ことに一杯でしつかりと振り返る余裕はなかったように思います。そこで、組織と事業の精査の中で、規約の目的にある「児童教化の実を挙げる」に注目し、児連のメンバーで話し合いをかさね、まずは山形の地に児童教化を広げることが主軸に活動していくことにしました。

具体的には、山形県内のお寺を会場にして事業を展開し、子どもたちに「お寺に来てもいいんだ」と思ってもらえるような企画を心がけ、子

どもとお寺の関係をつなぎ、お寺が子どもにとって居場所の選択肢となることを目指して活動しています。

五月二十九日・三十日に、児童教化連盟主催の「指導者研修会」が山形の地で開催され、近藤章氏が講師にお迎えし、「はじめての児童教化」というテーマで講義をしていただいたことは、再出発したばかりの地区児連にとってはよいタイミングでした。研修会には、地区児連に加入されていない方々も多く参加され、児童教化の種を蒔くよいきっかけとなりました。

これまで、私の中ではどうしても「児童教化」イコール「子ども会」というイメージがあり、児童教化のハードルを高く感じてしまっていました。

近藤先生は講義の中で、「児童を教化するのではなく、児童に教化される者として小さい人の前に立つ」「一人からはじめる子ども会の一

とは私なんです」とおっしゃられました。私自身が児童教化に携わる中で、ある意味では「教化しなければならぬ」と気負っていたのだと思います。

事業のテーマを考えるにしても、例えば「いのちについて考えてほしい」という教化者視点に立っており、「自分もわかっていないから一緒に考えてほしい」という被教化者としての視点に立っていませんでした。私自身が小さい人を前に大人ぶって、おこがましくも教化する善人として振る舞っていたのだと気付かされ、私こそが教化される身であることを再度認識させられました。

大人の中に身を置いていると、大人の振る舞い方を身に付け、社会生活でも子どもの前でも、大人として振る舞うことが求められているように思ってしまうます。まるで自分が大人であるかのように錯覚したまま大人として生活していると感じます。

よくよく考えてみれば、本来の人間の姿である子どもが、大人という姿を世間から身を守る鎧として着飾っている人を大人と呼んでいるだけなのではないか。子どもという純粹なる人間の相に教えられている気が

します。

また講義の中で近藤先生は、「ご法事で小さい人がいたら、ちょっと前に来てと言ってお話をする。そこに教化活動が、実践活動が展開されていく」「会を作って人を集めてではなく、こちらが小さい人たちの前に立つ姿勢をいただく。それがひとりから始めるということ」「私たちはいつでもどこでもどんなところでも児童教化はできる」とおっしゃられました。

どうしても「児童教化だから子ども会」と思ってしまうですが、子どもとの関わりそのものが児童教化なのだと思います。極論かもしれないですが、ご法事にいらっしゃった子どもにも視線を合わせて「こんにちは」「いらっしゃい」と挨拶するだけでも、私と子どもとの関わりが生まれます。それを「私は児童教化を始めました」と自信を持って言っているのではないのでしょうか。本来の人間同士としての関わりこそが、児童教化というよりも教化活動そのものの芯だと思います。また、先生は「開かれているところを寺というのです」ともおっしゃられました。「開かれている」というのは、この関わり

のことをいうのではないのでしょうか。

近藤先生の講義の中では、初めにデイビッド・マッキー氏の『六にんの男たちなぜ戦争をするのか?』という絵本を紹介していただきました。児童教化の場で、時折戦争がテーマとなる場合がありますが、私は「善悪もわからない自分勝手な価値観を子どもに押し付けてもいいのだろうか」という疑問を持っており、何かを伝えようとすれば、それは私の価値観で教化する者という立場として立っていることになるのではないかと思います。一方で、子どもを前にして何か「伝えるなければならない」という責任のようなものも感じています。

また先生は、「教化というのは、自分が感動したり、いいなと思ったことを渡していく」「俗に非ずとは、こういう人になりたい(ということ)」とおっしゃられ、伝えるということは、自分の理想を聞いてもらうことであり、必ずしも「教化する立場」とはならないのだと気付かされました。

伝えるということを通して、私がこの世界に何を願っているのか、を純粹なる子どもから問われている

のではないかと感じました。この問いに向き合うことが大人として振る舞う者の責任であり、伝えるということは共に考えるということなのだと思いました。

今回の研修を受けて、児童教化の出発点ということを知り、子どもとの関わりそのものが児童教化なのだと思えて確認させられました。地区児連は、本来の児童教化の意義に立ち返り、また教化の種から再出発したのだと自信を持って今は言うことができます。私自身、初心なく児童教化に携わってきたと思っていまして、この日の学びが、私の児童教化への初心となりました。



児童教化連盟指導者研修会で講義をする近藤氏

『いのち』

編集／大谷派児童教化連盟

私たちの「いのち」はどこから出発し、どこへ向かって生きているのでしょうか。仏さまは「いのち」について、単に生まれてから死ぬまでを教えているのではありません。私たちが生まれるには、それ以前の長い長い「いのち」の歴史があるのです。(本文より)

◆A5判／99頁 定価：600円

真宗大谷派青少年センター

〒600-8164 京都市下京区諏訪町通六条下る上柳町199番地 真宗教化センター しんらん交流館
TEL:075-354-3440 FAX:075-371-6171 E-mail:oyc@higashihonganji.or.jp

いのち



真宗大谷派

今月のお寺

227

せん
りゅう
じ
泉龍寺

(京都教区山城第二組)

京都府京都市中京区東洞院通二条下る瓦之町三八五番地

住職 泉 康夫
いずみ やすお



アロマオイルのワークショップ

これからとこれまでをともに生きる

真宗本廟から北へ四キロメートルほど、京都御所にも近い市内中心部、歴史と現在が融合したエリアにある泉龍寺でお話を伺った。

取材当日は、子育て支援を目的として、門徒さんを含む地域の方々、未就学児をもつ親子を対象とした、ヨガとアロマオイルのワークショップが開催されていた。取材中も、本堂からは終始賑やかな親子の声が続いてきた。その堂内ではアロマオイルの良い香りに包まれ、広い空間と畳の上で自由に過ごす子どもたちの姿に、自然と皆が笑顔になり、寛いだ時間が流れていた。「日常生活の中で気軽に立ち寄り、お寺の本堂で楽しいこと、嬉しいこと、そしてつらいことなどを共有できる場を提供できた」と話される住職とご家族からは、明るい雰囲気があふれていた。一人ひとり



春のお彼岸でのお勤め

の置かれた状況は違っても、それぞれに悩みを抱える者同士が、安心して身を置き、自分の言葉で表現し、お互いの声を聞き合える、「ともになやみ、ともに生きる」場として、お寺の場が開かれているのだと思えた。

また、住職からは、泉龍寺の「御堂衆」としての歴史のお話も伺うことができた。泉龍寺の開基である祐賢は、「御堂衆」として教

なられた葬儀に際しては導師を勤められた。さらに、教如上人が亡くなられた時には、自害を試みたものの一命をとりとめたこと伝えられ、教如上人との強い絆をみる事ができる。それ以降、歴代住職が「御堂衆」として本願寺に仕え、相続されてきたとのことであった。

後日、春のお彼岸にはお寺の年中行事の法要がお勤まりになり、外陣にてお勤めされる住職とご家族の姿が深く印象に残った。長らく堂衆として真宗本廟を敬いお仕えされた住職は、「本願寺が本堂であり、自坊はお内仏である。何においてもご本山の御用を優先させていただきたい」と話された。その表情に、住職の人となりが見えていた。

現在は自坊に戻られ、お寺を盛り立ててくれる副住職家族とともに、これからの教化活動を新たな課題として見据えられていた。



住職とご家族

如上人に仕えた人物。教如上人の二男観如上人が得度される際には剃刀役を務め、その観如上人が若くして亡く

総合相談室

ご利用になる皆様の個人情報に最大限の注意を払い運営しておりますので、安心してお気軽にご相談ください。
なお、宗務所に面談にお越しになる際は事前にご予約をお願いします。

宗派公式ホームページ

「後継者相談」入室希望

宗派ホームページからもご相談ください。情報登録並びに情報提供に関するお申し込みを受付しています。



結婚相手求む

● 寺院に迎えたい (家族構成)

神奈川県	男性	44歳	両親
富山県	男性	43歳	
岐阜県	男性	39歳	両親・妹弟
岐阜県	男性	49歳	
岐阜県	男性	54歳	母・弟
岐阜県	男性	39歳	
愛知県	男性	55歳	
愛知県	男性	41歳	
愛知県	男性	49歳	
愛知県	男性	46歳	
愛知県	男性	39歳	
三重県	男性	44歳	両親
三重県	男性	53歳	両親
大阪府	男性	38歳	両親
大阪府	男性	43歳	

北海道	女性	37歳	
山形県	女性	34歳	両親
新潟県	女性	38歳	
富山県	女性	50歳	
石川県	女性	35歳	
福井県	女性	39歳	両親
岐阜県	女性	40歳	両親
愛知県	女性	28歳	両親
滋賀県	女性	28歳	母・妹
大阪府	女性	38歳	両親
大阪府	女性	38歳	

● 寺院に入りたい

東京都	男性	49歳
-----	----	-----



入寺希望

秋田県	男性	58歳	有教師・東北教区希望
東京都	男性	56歳	有教師
東京都	男性	42歳	有教師
東京都在住	男性	43歳	有教師
東京都在住	男性	50歳	有教師・東京教区希望
埼玉県	男性	47歳	有教師
新潟県	男性	45歳	有教師・新潟県希望
石川県	男性	66歳	有教師・富山、能登、金沢教区希望
岐阜県	男性	75歳	有教師・岐阜県希望
愛知県	男性	70歳	有教師・愛知県、岐阜県、三重県希望
京都府在住	男性	53歳	有教師
大阪府	男性	67歳	有教師・大阪府、奈良県希望
大阪府在住	男性	53歳	有教師・大阪教区希望
鹿児島県	男性	46歳	有教師



法務員・寺務員求む

東京都/埼玉県/埼玉県 證大寺/神奈川県/新潟県/新潟市 真宗寺/
新潟市 超願寺/岐阜県/愛知県/大阪府/長崎県 法務員募集 詳細は面談で



後継者求む

北海道	有教師	50歳まで
北海道	有教師	25歳まで
北海道	有教師	要運転免許・40代まで
北海道	有教師	性別、単身・家族連れ不問・69歳まで
秋田県	有教師	性別、単身・家族連れ不問・50代くらいまで
山形県	有教師	性別、単身・家族連れ不問・50代くらいまで
宮城県	有教師	単身・家族連れ不問
長野県	有教師	50代まで
長野県	有教師	
新潟県	有教師	
新潟県	有教師	家族連れ・40代まで
新潟県	有教師	65歳くらいまで・要運転免許
東京都	有教師	50歳まで・要運転免許
富山県	有教師	家族連れ・50代くらいまで
富山県	有教師	家族連れ・40代くらいまで
富山県	有教師	70歳くらいまで・要運転免許
石川県	有教師	40代くらいまで
石川県	有教師	家族連れ・40代まで
石川県	有教師	家族連れ・50代まで
石川県	有教師	家族連れ
福井県	有教師	家族連れ・60代くらいまで
岐阜県	有教師	20~40代まで
岐阜県	有教師	家族連れ・50代まで
愛知県	有教師	家族連れ・40代くらいまで・要運転免許
愛知県	有教師	家族連れ
愛知県	有教師	家族連れ
愛知県	有教師	30代くらい
愛知県	有教師	家族連れ・40代くらいまで
愛知県	有教師	45歳まで
三重県	有教師	男性・40代まで
三重県	有教師	
滋賀県	有教師	
滋賀県	有教師	
滋賀県	有教師	50代くらいまで
滋賀県	有教師	家族連れ
滋賀県	有教師	
滋賀県	有教師	家族連れ
滋賀県	有教師	家族連れ・40代まで
滋賀県	有教師	要運転免許・65歳まで
福岡県	有教師	家族連れ
福岡県	有教師	家族連れ・60代くらいまで
長崎県	有教師	家族連れ
鹿児島県	有教師	独身・30代まで
鹿児島県	有教師	



法務員・手伝い希望

長野県	男性	有教師
三重県	男性	有教師 愛知県希望
滋賀県	男性	有教師 滋賀県・京都市希望
福岡県	男性	

● 組織部(教務)総合相談室 TEL: 075-371-9184

● 結婚に関する問い合わせは vivaha@higashihonganji.or.jp

Be Real
寄りそう知性

大谷大学

大谷大学博物館 2025年度秋季企画展

「大谷大学博物館の逸品 重要文化財 慈鎮和尚伝」

【実習生展併催】



本年の秋季企画展では「大谷大学博物館の逸品」として重要文化財「慈鎮和尚伝」を紹介し
ます。鎌倉時代初期の天台僧である慈円(1155~1225)の伝記で、没後まもない時期に
遺弟によって編さんされました。慈円は親鸞聖人の得度の師としても知られています。当館所
蔵品は他の伝記に見られない慈円の修道生活の内容や周辺の様子が具体的に記されること
から重要文化財に指定されたものです。内容とともに美しく書写された鎌倉時代の流麗な文字
も注目いただければと思います。

また博物館学芸員資格の取得をめざす博物館学課程の実習生たちが、企画から展示までを
おこなう「実習生展」も併催いたします。A班は京都の寺社巡りに関する展示、B班は陰陽師に
関する展示をおこないます。実習生による展示解説もありますので、あわせてご覧ください。

会 期:2025年9月6日(土)~9月27日(土)

時 間:10:00~17:00(入館は16:30まで)

休 館:日・月曜 ※ただし、9月7日(日)、9月21日(日)、9月22日(月)は開館

観覧料:無料

問い合わせ先:大谷大学博物館 TEL:075-411-8483



2025年度 開学記念式典並びに初代学長清沢満之謝徳法要

【日 時】10月11日(土) 10:00~12:00

【会 場】大谷大学講堂

【記念講演】 荻輪 顕量 氏 「釈尊からのメッセージ —現代社会が必要とするもの—」
(立正大学教授)

[総合型選抜入試] 9月1日(月)出願開始!

【出願期間】9月1日(月)~9月12日(金)

【試験日】10月4日(土)

【合格発表日】10月13日(月・祝)

給付対象等、奨学金の
詳細はこちらから ➡

PICK UP

総合型選抜入試を受験した
真宗学科または仏教学科への
入学生全員が、
「総合型選抜入学者奨学金」
【給付額25万円】の
給付対象となります!

〒603-8143京都市北区小山上総町 入学センター
TEL:075-411-8114 FAX: 075-411-8160
E-MAIL:nyushi-c@sec.otani.ac.jp

大学HPはこちらからご覧になれます ▶





同朋大学

DOHO UNIV.

～共なるいのちを生きる～

仏教学科公開講座

会場:知文会館

人生を考える講座 | 各回:隔月1日(1月は11日開講) 10:00～11:30 会費: 300円/1回

回	開催日	講 題	講師名
242	2025年 11月 1日(土)	自殺の現状 いかに生きるか	社会福祉学部社会福祉学科准教授 川乗 賀也 先生
243	2026年 1月11日(日)	人となる	元名古屋教区駐在教導 鈴木 南雄 先生
244	3月 1日(日)	人生をかけてつく嘘 —『古今集』テキストを編むということ—	文学部人文学科専任講師 山崎 健太 先生

真宗講座 | 各回:毎月29日開講 10:00～12:00/13:00～15:00(内容は午前午後通し) 会費:無料

2025年 9月29日(月)	歎異抄 15条	藤村 潔 講師
10月29日(水)	報恩講	尾畑 文正 名誉教授
11月29日(土)	歎異抄 16条	河村 諒 講師
12月29日(月)	歎異抄 17条	杉浦 道雄 講師
2026年 1月29日(木)	歎異抄 18条	安藤 弥 教授
3月29日(日)	後序	黒田 浩明 講師

[お問い合わせ先] 同朋大学文学部研究室 (TEL)052-411-1426 bukken@doho.ac.jp

連続いのちの講座

開催時限:木曜日5限(16:30～18:00) 会場:Doプラザ閣蔵1階Doホール(同朋大学内)

第1回	2025年 9月25日(木)	疑惑海	名古屋教区教化センター事務長 宮田 素樹 先生
第2回	10月30日(木)	菩薩の布施から考えるいのち	本学仏教学科専任講師 澤崎 瑞央 先生
第3回	11月27日(木)	白い道 二河譬の説く救いとは	本学仏教学科准教授 市野 智行 先生
第4回	12月18日(木)	いのちの尊さを伝える	本学社会福祉学科准教授 勝野 愛子 先生
第5回	2026年 1月15日(木)	介護福祉現場の看取りケア —いのちとその人らしい生活を考える—	本学社会福祉学科准教授 牛田 篤 先生

《御懇志》500円(1口) *全額、能登復興支援に送ります。

[お問い合わせ先] 同朋大学“いのちの教育”センター 052-411-1373 inochi@doho.ac.jp

※第1～3回については、本年度通年の「親鸞と現代」、第3～5回と兼ねての開催となります。

最新情報につきましては、大学HPでご確認いただくか、上記各連絡先までお問い合わせください。

シリーズ「私と同朋大学」は今回、休載です

同朋大学

E-MAIL:nyushi@doho.ac.jp

〒453-8540 名古屋市中村区稲葉地町7-1

TEL:052-411-1247

FAX:052-411-4124

WEB:https://www.doho.ac.jp/

■文学部
仏教学科/人文学科

■社会福祉学部
社会福祉学科
心理学専攻/社会福祉専攻/
子ども学専攻

■大学院
人間学研究科 仏教人間学専攻
仏教文化分野/人間福祉分野/臨床心理分野

■別科
仏教専修



**営業担当が
直接お伺いして
お洗濯、お直し承ります**

社内の和裁士が一点一点丁寧に
お直しと仕上げをしております

お気軽にお問合せください

下記QRコードより
お友達登録



株式会社 和光舎

法衣・御袈裟・打敷の丸洗いと補整・仕立

本社 〒612-8081 京都市伏見区新町3丁目487
Tel: 075-612-7988 Fax: 075-612-5760
三条工房 〒604-8132 中京区丸屋町156 cent-livie三条高倉1F

 **0120-45-4435**



ご本山三折ご本尊専用お厨子



純金箔押タイプ (お道具極上Aセット)

現代の住宅事情に合わせたオリジナルデザインの「御本山三折ご本尊専用お厨子」を製作致しました。このお厨子が、新しく御本尊をお迎えして始まる「お内仏を中心とした真宗ご門徒の生活」のスタートに少しでもお役に立てましたならば、幸いに存じます。

(税込)

仕様	本体のみ	お道具仕様	お道具付
金箔押仕上	40,000	極上A 彫入 花瓶 2.0寸	69,000
		極上B 無地 花瓶 2.2寸	56,000
		特製 新型無地 花瓶 2.2寸	51,000
		上製 略型火立 花瓶 2.2寸	44,000

※お道具セットには、透かし土香炉 1.8寸、木燭は 1.4寸が含まれております
※お道具はお厨子限定の特別ご奉仕セットのため、お道具セットのみの販売は致していません



極上B お道具



特製お道具



上製お道具

【お厨子仕様】

- 原産国：日本製
- 木地主材料：木質製
- 塗：黒塗 (別台部分ため色仕上)
- 箔押タイプ：純金一号箔押仕上
- 寸法：幅 48 cm × 奥行 21 cm × 高さ 25 cm

※三折ご本尊 (台付) はご本山にご申請ください



御誂えの京佛具を真心こめてつくる店

京佛具 大 塚

☎ 600-8150 京都市下京区東河院通上珠数屋町角

☎ 075-351-6553 FAX 075-341-0414

御連絡はフリーダイヤル ☎ 0120-20-6553 どうぞ

月刊 どうぼう

同朋

仏教がみちびく、あらたな人生

まずは、お寺で1冊ご購入ください!

◇ご門徒へのプレゼント、法要・行事の記念品としてもご利用ください。

「同朋」は生活の視点から、浄土真宗に親しむための月刊誌です



9月号特集 ZINE—誰にも頼まれていないけど作りたい私のメディア

〈ルポ〉

自分の思いを綴って誰かに手渡す——「ZINEフェス」の活気

〈インタビュー〉

紙とペンを持って何かを作るのがやっぱり一番面白いと、私は思ってしまうんですね。 / 野中モモ (ライター/翻訳者)

遅くて、おもしろくて、未知の世界をZINEで。 / SAPPORO POSSE (デザイナー/ライター)

〈寄稿〉

本もどき / panpanya (漫画家)

〈ブ・ポ・ソの語り場〉

受けとめると作りたくなる——浄土真宗とZINE?

巻頭インタビュー 五味太郎 (絵本作家)

魅力ある連載をご紹介します



後生の一大事を心にかけて
ニューヨークから開教便り

信侶

名倉 幹



キッチン菜時記

料理家

飛田和緒

最終回



小説「一切の幸せ」

小説家

岩川ありさ



哲学者と僧侶
「私」をめぐる往復書簡

信侶

中山善雄

お問い合わせ

◆ FAX・電話・ハガキ・メール、またはオンラインショップでお申し込みいただけます。

◆ 代金は、『同朋』と共に送付いたします振込用紙にて、お支払いください。

〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る

東本願寺出版『同朋』係

TEL : 075-371-9189 FAX : 075-371-9211

メール : books@higashihonganji.or.jp

息できる風景

マンガ家

森泉岳土

生きづらいこの世界でも

ライター

竹田ダニエル

日々平熱のソウル

ミュージシャン

中田 亮

ペコロスのほどけてしゃがんで

マンガ家

岡野雄一

●毎月1日発行

●A4判 フルカラー60頁

●購読料 年間 4,400円 (税込・送料込)

1冊 440円 (税込・送料別)

2025年7月号から価格改定

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃継続事業

若者教化立ち上げ応援プロジェクト 募集要項



**若者と出会い、教えに聞く場を共にひらきたい！
そんなあなたの思いをかたちにする応援プロジェクトです。**

一人の若者を誘って共に聞法の座につく

「若い人にもお参りしてほしい」、「お寺で青年会を立ち上げたい」、「同世代の若者と教えを聞いていきたい。だけど、どうしたらいいんだろう?」

若者と精進料理を作って仏教を語り合う場や、若者をさそい講師のお話を聞いての座談会、子育て世代の方を対象とした集いや、ウェブ会議システムを利用して若者と教えを聞く場がこのプロジェクトで立ち上がっています。ぜひ青少幼年センターまでご連絡ください。

あなたと若者との出会いの場を一緒に準備していきませんか？

- 1 **対 象** 寺院、組、別院、有志の会（真宗大谷派僧侶・門徒によるもの）
- 2 **募 集** 70会所（2023年度～2025年度）※残：17会所（2025年7月現在）
※本プロジェクトは募集定数に達するまで継続して実施します。
（2026年6月にて終了）
- 3 **内 容** ①必要に応じて、寺院活性化支援員が事前相談に伺い、状況に合わせた方法を共に考えます。（事前相談に係る寺院活性化支援員派遣費用は、下記経費とは別途企画調整局にて負担します）
②事業の講師・スタッフ等の経費を補助します。
（1会所 上限55,000円）
- 4 **応募方法** 青少幼年センターへご連絡ください。

青少幼年センター

〒600-8164 京都市下京区諏訪町通六条下る上柳町199
しんらん交流館内

T E L 075-354-3440 F A X 075-371-6171

メール oyc@higashihonganji.or.jp



真宗本廟奉仕・縁・諸研修報告

(研修部)

▼真宗本廟奉仕(25・7月)▲

教区	組	団体名	引率者名	人数	期間
新潟	第6	善念寺おみがき奉仕団	滋野康賢	6	7/1~7/2
新潟	第8	源長寺	八島瑞生	8	7/22~7/23
金沢	第9河北	同朋の会推進講座	勝田聡	29	7/7~7/9
小松大聖寺	第1	平和問題奉仕団	西山誠一	5	7/7~7/9
大垣	第5	門徒	後藤昌博	7	7/1~7/2
大垣	第18	真宗本廟奉仕団	横井真教	10	7/19~7/20
岡崎	第21	奉仕	境広昭	14	7/7~7/8
名古屋	第7	正本寺奉仕団	松本真暁	11	7/5~7/6
名古屋	第9	門徒	伊藤知	7	7/1~7/2
京都	出雲	胎泉寺奉仕団	藤本光	7	7/5~7/6
京都	若狭第1	推進員養成講座後期教習	三原隆応	7	7/19~7/21
山陽四国	第1	西光寺護持会奉仕団	室井美千博	5	7/1~7/2
九州	山門東	極應寺奉仕団	木下義隆	8	7/5~7/6
真宗同朋の会全国推進員連絡協議会		細川克彦	12	7/1~7/2	
東京真宗同朋の会		湯口暁	9	7/1~7/3	
真宗本廟おみがき奉仕団(個人)		研修部	8	7/1~7/2	
真宗本廟おみがき奉仕団(個人)		研修部	3	7/1~7/3	
真宗本廟子ども奉仕団①		研修部	33	7/25~7/27	
真宗本廟子ども奉仕団②		研修部	39	7/29~7/30	
計19団体				266名	

▼縁(25・7月)▲

計3期間 3団体 14名

▼諸研修(25・7月)▲

研修・会議名	担当部	人数	期間
光華小学校本山研修	教育部	35	7/18~7/19
第1回後期教師研修	教育部	19	7/18~7/24
真宗天谷派学校連合会第55回「新任教職員研修会」	教育部	52	7/28~7/30
計3団体		106名	



大谷祖廟（親鸞聖人御廟所）のご案内

大谷祖廟は親鸞聖人の御廟所であり、聖人をはじめ、本願寺の歴代、全国各地の寺院・ご門徒の方々のご遺骨が納められています。

開門：5時 閉門：17時

納骨・永代経・読経受付時間 8時45分～11時30分／12時45分～15時30分

※11時30分～12時45分までは受付を休止しています。

永代経法要 毎日14時30分～15時 定例法話 毎月13日・28日 永代経法要後

●大谷祖廟納骨について…



●読経について………



●団体参拝について…



●仏前結婚式について……



●施設利用について…



〔大谷祖廟事務所 〒605-0071 京都市東山区円山町477
TEL：075-561-0777 FAX：075-533-0780 〕



現在受付中の募集・開催要項等

詳細は本誌もしくは宗派公式ウェブサイトをご覧ください。

◆2026年宗務役員（一般職）募集（本誌8月号52頁）

応募書類提出期間：2025年8月25日(月)から9月18日(木)まで

総務部 宗務役員募集係【TEL：075-371-9272】



◆南米開教区開教使募集（本誌7月号119頁）

随時募集（派遣者が定員に達した時点で募集を終了いたします）

組織部（国際室）【TEL：075-371-9187／E-mail：kokusai@higashihonganji.or.jp】



◆真宗本廟お煤払い奉仕団 申込締切：2025年11月9日(日)

【2泊】12月19日(金)～12月21日(日)

【1泊】12月19日(金)～12月20日(土)

歳末、両堂の1年分の埃を竹の棒と大きな団扇を使って外へ扇ぎだし、新しい年をお迎える準備を行う「お煤払い」に参加する奉仕団です。

【参加費】〈2泊3日〉18,000円、米2kg(1升4合)または米代1,300円

〈1泊2日〉13,000円、米1.2kg(8合)または米代800円

※上記は大人(15歳以上)の場合です。

●真宗本廟奉仕施設の利用について…



●「縁」—納骨・帰敬式同朋会館宿泊プラン—

納骨・帰敬式でのご参拝の際、同朋会館にご宿泊いただけます。



【研修部(同朋会館) TEL: 075-371-9185】

真宗教化センター しんらん交流館のご案内

教化情報の発信・交流の拠点として、人と人をつなぐ地域に開かれた行事を開催しています。

東本願寺日曜講演 9時30分～11時

9月7日 岡崎教区本光寺住職 稲前恵文氏「学仏大悲心」

9月28日 教学研究所所員 難波教行氏「親鸞教学と障害問題」

しんらん交流館定例法話 お勤め14時～、法話14時30分～15時30分(毎月12日・27日は10時～)

※毎週火曜日・9月21日休会。その他都合により休会する場合があります。

9月の法話はこちら…



電話相談「東本願寺 いのちとこころの相談室」 毎週木曜日13時～17時

皆さまのお悩み・ご相談をお聞きます。 TEL: 075-371-9280

東本願寺文庫・絵本コーナー 9時～16時30分 ※絵本コーナーの閲覧は17時まで

書籍・絵本の閲覧、貸し出しを行っています。

浄土真宗ドットインフォ(しんらん交流館ホームページ)のご案内

お寺のサポート情報・浄土真宗の教えにふれる情報を配信しています。



【真宗教化センター しんらん交流館 [開館時間/9時～17時 休館日/毎週火曜日]

〒600-8164 京都市下京区諏訪町通六条下る上柳町199番地

TEL: 075-371-9208 メール: shinrankoryukan@higashihonganji.or.jp

真宗本廟 参拝接待所のご案内

真宗本廟取骨・読経・帰敬式・お斎・団体参拝の受付を行っています。〔開所時間／9時～16時〕
〔真宗本廟開門・閉門時間／3月～10月：5時50分～17時30分、11月～2月：6時20分～16時30分〕

- 真宗本廟取骨について……………
御影堂の宗祖親鸞聖人御真影のもとに、ご遺骨をお取めさせていただきます。



- 読経について……………
御影堂での本山永代経・御影堂読経、参拝接待所仏間での仏間読経をお受付しています。



- 帰敬式について……………
仏、法、僧の三宝に帰依し仏弟子となる大切な儀式です。



- 真宗本廟団体参拝について……………
諸殿拝観や清掃奉仕等を通して、真宗の教えにふれていただくことを願いとしています。



- お斎について……………
精進料理のお膳を書院でお召し上がりいただけます。



各種お申し込み受付時間・……………
お取り扱いの予定はこちら



晨朝法話・真宗本廟法話

晨朝【阿弥陀堂及び御影堂】毎日7時～ 晨朝法話【御影堂】毎日7時30分頃～

真宗本廟法話【視聴覚ホール・御影堂・参拝接待所仏間】

通常：10時10分～／13時10分～ 速夜日（12日・27日）：13時10分～

御命日（28日）：9時30分～

法要・法話のご案内…



参拝接待所ギャラリー 9時～16時 入場無料

「親鸞聖人のご生涯」（常設展） 「涉成園展」9月5日（金）～10月28日（火）

涉成園（枳殻邸）

開園時間 〈3月～10月〉9時～17時（受付は16時30分まで）

〈11月～2月〉9時～16時（受付は15時30分まで）

庭園維持寄付金 一人700円以上（高校生・中学生300円以上、小学生以下無料）



涉成園

〔本廟部・参拝接待所 TEL：075-371-9210〕

真宗本廟奉仕のご案内

「同朋会館」は、全国から集う方々が寝食を共にし、親鸞聖人の教えを聞き、真宗門徒の生活を習う聞法の道場です。ご門徒・お友達を誘って、真宗本廟奉仕にご参加ください。

お申し込みは上山希望日の40日前までに行ってください。

詳細・お申し込み…



テーマのある真宗本廟奉仕のご案内

- ◆真宗本廟おみがき奉仕団 申込締切：2025年9月30日（火）

〔2泊〕11月9日（日）～11月11日（火）／〔1泊〕11月9日（日）～11月10日（月）

報恩講を迎えるにあたって、真宗本廟内の仏具のおみがきを両堂の縁で行います。

○六・九・十字御名号 (御讃付)

一 貫 代	330,000	270,000	220,000
七 百 代	320,000	240,000	200,000
五 百 代	300,000	220,000	170,000
三 百 代	260,000	200,000	150,000

○変寸

一申請につき 50,000 円 (上記同願に限る)

2. 門徒の部

(金襴表装)

(金襴表装)

(無金表装)

【截金】

○絵 像 御 本 尊

二 百 代	146,000 円	95,000 円	70,000 円
百 五 十 代	121,000	77,000	52,000
百 代	98,000	53,000	34,000
七 十 代	97,000	52,000	31,000
五 十 代	88,000	40,000	28,000
三 十 代	78,000	38,000	26,000
二 十 代	77,000	37,000	25,000

○九字・十字御名号一流 (各一幅は半額)

二 百 代		111,000	77,000
百 五 十 代		91,000	64,000
百 代		67,000	49,000
七 十 代		61,000	47,000
五 十 代		50,000	40,000
三 十 代		46,000	36,000
二 十 代		44,000	34,000

○宗 祖 聖 人 御 影

二 百 代		77,000	52,000
百 五 十 代		61,000	43,000
百 代		40,000	34,000
七 十 代		39,000	31,000
五 十 代		30,000	25,000
三 十 代		28,000	23,000
二 十 代		27,000	21,000

○蓮 如 上 人 御 影

二 百 代		61,000	40,000
百 五 十 代		52,000	29,000
百 代		34,000	22,000
七 十 代		31,000	21,000
五 十 代		24,000	19,000
三 十 代		22,000	17,000
二 十 代		20,000	16,000

○三折御本尊 (台付)

御本尊・九字十字御名号付		31,000 円	
御本尊		24,000	
御本尊 (小型)		8,000	

○額 装 御 本 尊

御本尊		15,000 円	
-----	--	----------	--

授与礼金 (告示第4号)

2026年7月1日現在

1. 寺院の部	(金襴表装) 【截金】	(金襴表装)	(無金表装)
○絵 像 御 本 尊			
一 貫 代	700,000 円	500,000 円	400,000 円
七 百 代	500,000	400,000	320,000
五 百 代	400,000	300,000	250,000
三 百 代	300,000	220,000	170,000
○宗祖聖人御影 (厨子形)			
厨子形大形		450,000 円	380,000
同 二番形		400,000	300,000
同 三番形		350,000	260,000
○宗祖聖人御影 (常例)			
大 形		580,000	470,000
二 番 形		500,000	410,000
三 番 形		370,000	300,000
四 番 形		320,000	270,000
一 貫 代		300,000	240,000
七 百 代		250,000	200,000
五 百 代		220,000	170,000
三 百 代		200,000	150,000
○蓮如上人御影 (御讃付)			
三番形黒袷帯		360,000	300,000
四番形 〃		300,000	250,000
一貫代 〃		270,000	220,000
七百度 〃		240,000	200,000
五百度 〃		200,000	150,000
三百度 〃		160,000	130,000
○皇太子・七高僧・法然上人御影			
皇太子御影		550,000	460,000
七高僧御影		600,000	530,000
法然上人御影		310,000	250,000
○御歴代御影			
二 番 形		450,000	350,000
三 番 形		370,000	300,000
四 番 形		330,000	250,000
但し、第八代蓮如上人迄は黒袷帯、または黒衣とし、第九代実如上人以後は緋袷帯とする。 紫衣鈍色は第二十代達如上人に限る。			
○列祖双幅御影		740,000	620,000
○御 絵 伝			
四幅御絵伝		3,600,000	3,030,000
二幅 〃		2,600,000	2,050,000
○六・九・十字御名号			
一 貫 代	320,000	220,000	200,000
七 百 代	310,000	210,000	170,000
五 百 代	280,000	200,000	160,000
三 百 代	250,000	170,000	140,000

富山教区 第2組 光圓寺
前坊守 市川 照子
2025・6・7寂(96歳)

富山教区 第3組 浄安寺
前坊守 梅川 美保子
2024・12・11寂(97歳)

富山教区 第3組 光泉寺
前坊守 吉田 民子
2025・5・18寂(96歳)

富山教区 第6組 安乗寺
前坊守 池守 笑子
2025・6・5寂(88歳)

富山教区 第6組 顯證寺
前坊守 現影 誓厚
2025・4・28寂(95歳)

能登教区 第5組 光琳寺
前坊守 木越 摩知子
2025・5・26寂(90歳)

能登教区 第10組 乗光寺
前坊守 落合 上聰
2024・6・3寂(100歳)

能登教区 第10組 還相寺
前坊守 萩村 文枝
2025・5・23寂(97歳)

金沢教区 第11組 願成寺
前坊守 藤森 憲子
2025・5・24寂(87歳)

金沢教区 第11組 本立寺
前坊守 寺西 秋子
2025・4・19寂(97歳)

福井教区 第6組 専福寺
前坊守 新郷 艶子
2025・2・27寂(99歳)

岡崎教区 第1組 西照寺
前坊守 和田 月子
2025・4・7寂(94歳)

岡崎教区 第27組 願永寺
坊守 鵜井 宏子
2025・6・6寂(58歳)

名古屋教区 第2組 盛泉寺
前坊守 都築 香代子
2025・5・19寂(98歳)

京都教区 長浜第12組 源海寺
前坊守 寺尾 雅子
2024・9・12寂(89歳)

京都教区 長浜第12組 法雲寺
坊守 四木 美恵子
2025・5・20寂(98歳)

京都教区 長浜第17組 西養寺
前坊守 南池 美和子
2024・9・23寂(85歳)

京都教区 山城第2組 西蓮寺
前坊守 西井 重子
2025・5・2寂(94歳)

京都教区 近江第1組 本立寺
坊守 比良 いづみ
2025・5・24寂(52歳)

京都教区 近江第3組 寶尊寺
坊守 松内 和良
2024・11・17寂(87歳)

京都教区 近江第7組 愛樂寺
前坊守 安吉 昭子
2024・8・5寂(85歳)

京都教区 石東組 徳泉寺
前坊守 岡本 八重子
2025・2・24寂(101歳)

大阪教区 第18組 遠慶寺
前坊守 大橋 多喜子
2025・4・22寂(89歳)

山陽四国教区 第2組 善龍寺
前坊守 金森 マユミ
2024・11・27寂(96歳)

山陽四国教区 第4組 西蓮寺
前坊守 山科 淳子
2025・1・29寂(96歳)

山陽四国教区 第7組 法専寺
前坊守 藤丸 宗子
2025・6・1寂(82歳)

山陽四国教区 美作組 正恩寺
前坊守 軌保 慧子
2025・5・16寂(99歳)

九州教区 熊本中組 延隆寺
前坊守 菊池 幸子
2025・4・11寂(95歳)

名古屋教区 第28組 雲正寺
住職 吉川 淳信
2024・11・25寂(87歳)

京都教区 長浜第12組 敬永寺
前住職 桂樹 玄
2024・12・19寂(96歳)

京都教区 長浜第17組 観念寺
前住職 明石 祐暁
2025・6・9寂(90歳)

京都教区 長浜第21組 明善寺
前住職 中澤 成晃
2025・4・26寂(91歳)

京都教区 敦賀組 高福寺
住職 竹本 良英
2025・6・4寂(88歳)

京都教区 近江第3組 福正寺
住職 井上 智晴
2025・4・3寂(50歳)

京都教区 近江第26組 西廣寺
前住職 武田 信生
2025・6・6寂(81歳)

大阪教区 第3組 受念寺
住職 岸上 正
2025・5・16寂(80歳)

大阪教区 第21組 西然寺
前住職 佐野 賢正
2025・4・25寂(78歳)

九州教区 奥豊後組 妙雲寺
前住職 山香 英磨
2025・5・17寂(89歳)

九州教区 三潞組 明正寺
住職 廣瀬 海宗
2025・4・12寂(89歳)

九州教区 唐津組 行因寺
前住職 立華 浩
2025・4・20寂(84歳)

坊守及び前坊守

北海道教区 第15組 聖明寺
前坊守 渡邊 智逗子
2025・5・15寂(94歳)

東京教区 茨城1組 正藏寺
前坊守 梁河 千恵子
2025・1・15寂(82歳)

東京教区 東京7組 順正寺
前坊守 江口 久子
2024・11・11寂(90歳)

新潟教区 第6組 等正寺
前坊守 稲清水 リヤウ
2025・3・23寂(89歳)

まずは電話、メールなどでご連絡ください。
日程相談の上参上いたします。

毎月全国へ出張訪問中

寺宝 正絹金襴緞子
文化財修理修復表装

※正絹本金の場合はお見積りください



表具幅 83cm まで 正絹 44 万円(税込)

表具幅 70cm まで 正絹 38 万円(税込)



そろそろ 修理

御絵伝・七高僧・聖徳太子

杉本工芸

自社工房内で一貫作業いたします

〒602-8268 京都市上京区山里町 236-1
TEL075-417-6966
sugikake@gmail.com

見積無料

敬 弔

ご生前のご功労を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

(2025年6月16日～2025年7月15日受付まで)

住職及び前住職

東京教区 茨城1組 永泉寺
前住職 相 馬 法 静
2025・5・15寂 (76歳)

東京教区 東京4組 善慶寺
住 職 藤 井 貞 之
2024・4・4寂 (91歳)

東京教区 長野1組 龍澤寺
住 職 土 屋 良 明
2025・2・5寂 (85歳)

東京教区 長野1組 正榮寺
住 職 横 田 恵 彦
2025・6・4寂 (78歳)

東京教区 長野3組 長徳寺
住 職 小 出 義 弘
2024・12・13寂 (69歳)

新潟教区 第10組 願隆寺
前住職 秋 月 尚 友
2025・5・12寂 (94歳)

新潟教区 中越11組 妙樂寺
住 職 松 浦 敬 真
2025・6・12寂 (52歳)

新潟教区 第14組 福順寺
住 職 夏 井 允 照
2025・6・8寂 (87歳)

新潟教区 第7組 願樂寺
住 職 羽 賀 等
2025・5・30寂 (76歳)

新潟教区 高田11組 高德寺
前住職 外 立 慈 教
2025・4・13寂 (92歳)

金沢教区 第5組 慶覺寺
住 職 泉 澁
2025・5・14寂 (86歳)

金沢教区 第8組 專融寺
住 職 滋 井 眞
2025・4・20寂 (77歳)

金沢教区 第10組 本蓮寺
前住職 藤 本 廣 昭
2025・5・5寂 (75歳)

大垣教区 第5組 蓮成寺
前住職 泓 泰 巖
2025・6・7寂 (95歳)

大垣教区 第5組 西生寺
前住職 稲 葉 宏 子
2025・6・6寂 (88歳)

大垣教区 第15組 西運寺
前住職 中 村 了 權
2025・5・5寂 (87歳)

岡崎教区 第31組 圓滿寺
前住職 鬼 頭 良 武
2025・4・30寂 (83歳)

名古屋教区 第2組 了願寺
前住職 本 田 眞 哉
2025・4・10寂 (89歳)

名古屋教区 第12組 現瑞寺
前住職 渡 邊 信 誓
2025・6・17寂 (91歳)

名古屋教区 第26組 圓盛寺
前住職 北 畠 修
2025・6・9寂 (94歳)



輪島塗記念品・調度品・什器・家具・修理品など承ります。



輪島塗本舗

うるし屋

うるし屋ショールーム
能登へお越しの折には
ぜひお立ち寄り下さいませよ
心よりお待ちしております。
(朝市へ徒歩1分です。)

電話 0768-23-0188 7ヶダイヤル 0120-23-0856 FAX0768-23-0089
〒928-0001 石川県輪島市河井町4部99(朝市通り東) 営業時間AM8:30~PM17:00 毎週日曜日定休

岐阜高山教区第12組 淨光寺
 岐阜高山教区第12組 淨光寺
 大垣教区第7組 受念寺
 大垣教区第12組 極念寺
 名古屋教区第2組 光西寺
 名古屋教区第2組 淨仙寺
 名古屋教区第2組 淨仙寺
 名古屋教区第3組 明泉寺
 名古屋教区第3組 久證寺
 名古屋教区第9組 光圓寺
 名古屋教区第12組 善定坊
 名古屋教区第29組 蓮開寺
 三重教区三重組 金藏寺
 三重教区南勢2組 光蓮寺
 京都教区敦賀組 高福寺
 京都教区山城第2組 大泉寺
 京都教区近江第26組 最勝寺
 京都教区近江第26組 法泉寺
 大阪教区第2組 了安寺
 大阪教区第2組 了安寺
 大阪教区第4組 瑞興寺
 大阪教区第20組 泉福寺
 大阪教区第20組 泉福寺
 大阪教区第21組 淨專寺
 大阪教区第26組 蓮光寺
 大阪教区第27組 教行寺
 四国教区中讃組 永覺寺
 九州教区田川組 通善寺
 九州教区田川組 圓滿寺
 九州教区田川組 圓滿寺
 九州教区田川組 圓滿寺
 九州教区大分東組 光西寺
 九州教区福岡組 慈廣寺
 九州教区福岡組 慈廣寺

丸山英保
 内田里保
 辻 貴仁
 日比唯月
 古居 仁
 本多 梓
 本多和玖
 武田麻美
 松村康平
 服部あみか
 佐藤徳諒
 阿部訓大
 堀出幸子
 林 美宇
 平澤光紀
 松浦斗希雄
 山田惟明
 吉武 優
 海老海紀子
 海老海沙恵
 杉野俊治
 遊佐蘭菜
 遊佐海里
 住谷あかり
 大山祥子
 孤杉理恵
 矢野幸輝
 村上秀美
 御笹円花
 御笹花南
 御笹花蓮
 大友 静
 有馬禎子
 小田菜穂子

特殊大旌賞

市場顕真 中村 淳

特殊旌賞

仁禮秀嗣 但馬 普 京極直哉 大矢宏基

一等旌賞

阿部 諒 飯居宇孝 田村大輔 大谷 求 佐々木浄浩
 久我 益 森 涉 井上貴文 高木友裕 但馬信勝

七等旌賞

藤井香織 近藤修平

八等旌賞

元平雅仁 村田 実 和田我聞 柴田拓弥 龍山 覚
 但馬摩耶 八木顕太郎 坂田 弦 寺西慈玄 武田達樹
 安本惟一 古賀竜美 照光雅能 永吉 証 弘誓真和
 廣瀬宗樹 増田慧水

功章旌賞

特殊大功章

林 晃雄 北 秀徳 緋門秀聡

特殊功章

大幸 慧 櫛田誠裕 宮部 聡 佐竹 融

第一功章

阿部 諒 飯居宇孝 田村大輔 大谷 求 佐々木浄浩
 久我 益 森 涉 井上貴文 高木友裕

第七功章

藤井香織 近藤修平

第八功章

元平雅仁

九州教区浮羽組 寶琳寺
九州教区熊本中組 願正寺

住職代務者

東北教区秋田県南組 傳福寺
東北教区中組 本覺寺
東京教区東京4組 善慶寺
東京教区长野1組 正榮寺
東京教区长野2組 長勝寺
新潟教区佐渡組 淨賢寺
富山教区第12組 佛現寺
能登教区穴水組 法性寺
能登教区第12組 明傳寺
金沢教区第9河北組 明現寺
金沢教区第11組 本樂寺
小松大聖寺教区第2組 光聖寺
小松大聖寺教区第1組 正願寺
福井教区第8組 淨信寺
岡崎教区第3組 淨教寺
岡崎教区第28組 專藏寺
名古屋教区第20組 禮光寺
三重教区三重組 長傳寺
京都教区长浜第17組 宗元寺
京都教区近江第2組 覺乘寺
京都教区近江第9組 信樂寺
京都教区近江第26組 琳明寺
京都教区丹波第1組 最勝寺
大阪教区第10組 安樂寺
大阪教区第17組 雲乘寺
山陽四国教区備後組 寶泉寺
山陽四国教区中讃組 宣法寺
九州教区豊前中津組 満光寺
九州教区福岡組 光蓮寺
九州教区三潞組 明正寺
九州教区大牟田三池組 圓通寺
九州教区熊本西組 直入寺
九州教区鹿児島組 大東寺
九州教区鹿児島組 源光寺

教会主管者代務者

新潟教区第21組 木揚場教会

教師

権大僧正

本田眞哉 北畠 修

僧正

本多崇興 大照 卓 富重真直 明石祐暁 立華 浩
山香英磨 桂樹 玄 秋月尚友 佐野賢正

野上順樹
篠由希子

稲葉盛榮
和田信寿
二階堂行壽
横田文樹
木曾秀英
松永寛亮
塚本千晶
前田千尋
隆 彰見
佐々木進
牧田静江
滋野井光
芳原里詩
松原祐爾
雪吹祖遵

永田以和貴
武田哲明
坂口 愛
徳永 誠
清水善彦
松澤大安
島津知之
原田祐生
太田善顕
田子多純子
三次正信
岡 学
清原哲雄
延壽寺玄志
廣瀬智海
菊山 亮
海 秀道
武鹿節子
齊藤暁生

栃倉南雄

権僧正

酒井朋憲 草野無我 岸上 正 廣瀬海宗 中村了權

大僧都

皆田世英 長村恒成 片山 環 末弘武士 高木友裕
富重真蓮 相馬法静 中澤成晃

権大僧都

耳浦真実 藤原 航 羽賀 等 藤井貞之 井上智晴
泉 激

僧都

祖父江佳乃

権僧都

朽木一賢 泓 泰巖 松浦敬真

律師

稲葉宏子 外立慈教

権律師

渡邊信誓

法師位

近藤修平 井上貴文 横田惠彦 藤本廣昭 滋井 眞
土屋良明 吉川淳信 鬼頭良武

満位

大村知史 竹本良英 武田信生 夏井允照

教導発令

永井明輝

輔導使に任命します

(2025年7月9日)

得 度 (6月24日)

北海道教区第4組 教願寺 松岡 聡
北海道教区第10組 淨運寺 手捲友納
北海道教区第10組 淨運寺 手捲響空
東北教区花巻組 圓徳寺 照井勝子
東北教区仙台組 玉蓮寺 林健太郎
新潟教区第20組 真光寺 大野智子
新潟教区第20組 金寶寺 青木 俊
新潟教区第20組 金寶寺 池田 梓
新潟教区第22組 長徳寺 大谷尚子
新潟教区第8組 圓性寺 林 弥生
新潟教区第8組 淨音寺 中村春樹
富山教区第10組 淨光寺 齊藤健太
富山教区第11組 淨誓寺 福井称子
富山教区第2組 徳仁寺 小西正美
富山教区第3組 以速寺 向井竜太郎
能登教区第11組 称念寺 浦西成実
小松大聖寺教区第2組 本覺寺 中西 隆
小松大聖寺教区第2組 乘願寺 福原一生
岐阜高山教区清見組 西正寺 野崎千晴
岐阜高山教区第1組 上宮寺 小笠原護

真宗教化センター寺院活性化支援員（過疎・過密地域寺院教化支援担当）を命じます

企画調整局嘱託 藤 祐樹
同 上寺恵美

真宗教化センター寺院活性化支援員（青少年教化支援担当）を命じます

日下部融

福井教区寺院活性化支援員（青少年教化支援担当）に任命します

期限 2026年5月31日まで

真宗教化センター寺院活性化支援員（寺院運営活性化支援担当）

松岡雅則

同 小池賢祐
東北教区寺院活性化支援員（寺院運営活性化支援担当）の兼務を命じます

真宗教化センター寺院活性化支援員（寺院運営活性化支援担当）

河田和幸

名古屋教区寺院活性化支援員（寺院運営活性化支援担当）の兼務を命じます

千森秀郎 鷹橋賢淳 泉 真澄 畠山 真
長澤秀豊

中央選挙管理委員会委員を委嘱します

荷葉一浩 峰 真

中央選挙管理委員会委員の補充員を委嘱します

秦 智秀 寺澤三郎 高柳 耀 明本弘治
星 昌人 本澤盛正 榊 従子 前田悦範
星野 暁 山名智子 酒井あゆみ 前田義朗
秦 顕生 草間朋哉 鈴木唯我 渡邊 量
田中竜雄 繁原 立 芳野香苗 堀河如信
親跡宗徳 関 隆徳 虎石 薫 岩崎 歩
石川正穂 松永克人 釣 章子 松本美紀
崖 超 池崎方子 井上朋裕 森田恵利
松扉 覚 平野喜之 山田顕子 小原正寛
千葉 悠 亀井俊哉 藤 祐樹 大橋尚代
泉 敬祐 鈴木知見 杉浦明道 生田 亮
祖父江志郎 田島聴恵 小笠原史哉
日下部志律雄 狐野やよい 西藤絵里子
服部華子 不二門至浄 檉 歩
折戸沙紀子 本井友紀 泉阿弥華 高木淳善
中川敬子 三品正親 藤井真隆 山内称基
辻岡由記子 南枝尚美 日野和雅 藤井大介
釋氏信昭 津垣えり子 相良義和 草野 萌
観山尚之 嵯峨歌織

青少年スタッフを委嘱します

期限 2026年6月30日まで

講師 小川一乗
同 本多弘之
同 延塚知道
同 木村宣彰

同 廣瀬 惺

董理院董理に任命します

期限 2029年6月30日まで

董理院董理 本多弘之

董理院長に任命します

期限 2029年6月30日まで

(以上、7月1日)

金倉泰賢 尾畑英和 富田泰成 松原繁光
中山恵津子 森 孝司 二階堂行壽
安藤 弥 藤澤順子 亀田見巖 藤原 勲
護山信麿

「大谷祖廟及び東大谷墓地に関する総合整備委員会」委員を委嘱します

(7月14日)

住 職 (6月28日)

北海道教区南第3組 恵暁寺 松下かおる
北海道教区第5組 専光寺 手嶋元磨
北海道教区第9組 光明寺 吉田賢成
北海道教区第9組 廣徳寺 西崎智信
北海道教区第17組 専然寺 太田融哉
東北教区青森県第2組 蓮心寺 本間義敦
東北教区盛岡組 光照寺 千葉 晋
新潟教区第14組 廣西寺 鷺尾雄慈
新潟教区第18組 專精寺 朝比奈法尚
新潟教区第22組 順了寺 手島 創
新潟教区第7組 唯念寺 尾崎貴英
新潟教区第8組 延壽寺 鷺嶺彰宏
富山教区第8組 万徳寺 長谷顕文
能登教区第7組 善正寺 波佐谷佳奈
金沢教区第9金沢組 勸修寺 松林誠章
福井教区第5組 西養寺 立山 凧
福井教区第10組 高德寺 北野茂樹
岐阜高山教区第2組 法藏寺 平野裕信
大垣教区第7組 受徳寺 土岐寿徳
岡崎教区第3組 妙楽寺 鈴木勝宏
名古屋教区第1組 善正寺 加藤一尊
名古屋教区第9組 青宮寺 榎山三慧
名古屋教区第21組 専光寺 黒田健二
名古屋教区第21組 寶來寺 小笠原史哉
京都教区長浜第18組 極楽寺 後藤洋明
京都教区長浜第23組 速満寺 藤澤賢祐
京都教区山城第4組 光久寺 徳田潤子
大阪教区第10組 光善寺 太田善顕
大阪教区第17組 佛願寺 渡邊 晃
大阪教区第25組 西休寺 藤並明徳
山陽四国教区第2組 西願寺 藤木智勝

泉原寛康	同
広島別院輪番に任命します	同
任期 2029年6月30日まで	同
河野 聖	同
土佐別院輪番に任命します	同
任期 2029年6月30日まで	同
天野雄大	同
山科別院列座に任命します	同
稲垣元彬 伊藤瑞樹 山内 崇	同
名古屋別院書記に任命します	同
教学研究所事務長 保木悦雄	同
企画調整局出仕の兼務を命じます	同
東京教務所次長 益田勇哲	同
東京宗務出張所次長の兼務を命じます	同
東京宗務出張所次長 菴原宏行	同
東京教務所次長の兼務を命じます	同
大阪教務所次長 粟津大隆	同
大阪教務所主計事務取扱を解きます	同
財務部主事 中村 悠	同
大谷祖廟事務所主事の兼務を命じます	同
財務部書記 宮尾悠樹	同
大谷祖廟事務所書記の兼務を命じます	同
研修部書記 東 共子	同
財務部書記の兼務を解きます	同
研修部書記 山本由惟	同
財務部書記の兼務を命じます	同
本廟部長 近松 誉	同
本廟部出仕 清澤 悟	同
本廟部定衆 藤原 忍	同
本廟部鍵役補の兼務を命じます	同
本廟部長 近松 誉	同
本廟部定衆の兼務を命じます	同
青少年センター主幹 鷲嶺彰宏	同
企画調整局参事の兼務を命じます	同
内事部嘱託 鈴山憲彰	同
総務部嘱託の兼務を命じます	同
内事部嘱託 禮美章子	同
財務部嘱託の兼務を命じます	同
岡崎別院会計 近藤 悠	同
岡崎別院輪番事務取扱を命じます	同
山陽四国教務所長 加藤真樹	同
姫路船場別院輪番の兼務を命じます	同
企画調整局出仕 保木悦雄	同
同 松田亜世	同
企画調整局業務主幹を命じます	同
解放運動推進本部嘱託 上田 文	同
同 比叡谷紗誓	同
同 西寺真也	同
同 森田恵利	同

同 犬飼祐三子	同 高名 等
女性室スタッフを命じます	同
出版部嘱託 三木彰円	同
聖教編纂室特別編纂研究員を委嘱します	同
出版部嘱託 村上無量	同
聖教編纂室編纂研究員を命じます	同
出版部嘱託 村上無量	同
聖教編纂室掛を命じます	同
大谷祖廟事務所次長 木村 恒	同
大谷祖廟及び東大谷墓地に関する総合整備事業事務室主任を命じます	同
大谷祖廟事務所次長 藤宗智秋	同
大谷祖廟事務所主事 坂田雄生	同
同 中村 悠	同
大谷祖廟事務所書記 大谷 求	同
同 宮尾悠樹	同
大谷祖廟事務所嘱託 泉原梨伽子	同
大谷祖廟及び東大谷墓地に関する総合整備事業事務室掛を命じます	同
企画調整局出仕 松田亜世	同
真宗教化センター寺院活性化支援室統括主任を命じます	同
企画調整局参事 鷲嶺彰宏	同
真宗教化センター寺院活性化支援室主任(青少年教化支援担当)を命じます	同
企画調整局長 玉樹 崇	同
企画調整局出仕 松田亜世	同
同 保木悦雄	同
真宗教化センター寺院活性化支援員(寺院運営活性化支援担当/過疎・過密地域寺院教化支援担当/青少年教化支援担当)を命じます	同
企画調整局嘱託 西村昌桐	同
真宗教化センター寺院活性化支援員(寺院運営活性化支援担当/青少年教化支援担当)を命じます	同
企画調整局参事 照井静志	同
東北教区駐在教導 松岡雅則	同
同 小池賢祐	同
名古屋教区駐在教導 河田和幸	同
山陽四国教区駐在教導 箕浦彰巖	同
山陽四国教区駐在教導(四国教務支所) 佐々木大	同
企画調整局嘱託 畠山 真	同
同 西野健太郎	同
同 蓮沼乘行	同
同 藤井大介	同
真宗教化センター寺院活性化支援員(寺院運営活性化支援担当)を命じます	同
企画調整局参事 中山郁英	同
企画調整局嘱託 亥子耶史世	同
同 松浦知子	同

別紙のとおり
以上
(本誌49頁に掲載)

告示第5号

教区及び組の改編に関する条例(2013年条例公示第4号)第44条の規定により、山陽教区、四国教区、山陽四国教区とし、山陽四国教務所を設ける。

2025年7月1日

宗務総長 木 越 涉

告示第6号

山陽四国教区発足に伴い、山陽四国教区に四国教務支所を設置する。

2025年7月1日

宗務総長 木 越 涉

告示第7号

2025年7月1日をもって、四国教区東予組・松山組・宇和島組を合併し、山陽四国教区伊予組に、岡崎教区第3組・第30組を合併し、岡崎教区第3組とする。

2025年7月1日

宗務総長 木 越 涉

任免辞令

本廟部参衆 安本惟一
同 松村成隆
本廟部堂衆の兼務を命じます
(2025年6月28日)

企画調整局長 木曾 修
企画調整局出仕 山崎育子
内事部主事 鈴山憲彰
新潟教務所(高田教務支所)書記 圓谷千生
本廟部定衆 野間 顕
定年により役務を免じます
北海道教務所次長 大鳳真誌

大阪教務所主事 安田誓遵
本廟部嘱託 本田則行
岡崎別院輪番 福田 大
函館別院列座 唐仁原賢祐

願により役務を免じます

北海道教務所長 柳野大輔
旭川別院輪番事務取扱を解きます
(以上、6月30日)

本廟部定衆 近松 誉
本廟部長に任命します

企画調整局次長 玉樹 崇
企画調整局長に任命します

小松大聖寺教務所長 保木悦雄
教学研究部事務長に任命します

東京宗務出張所長 宮尾隆造
小松大聖寺教務所長に任命します

山陽教務所長 加藤真樹
山陽四国教務所長に任命します

四国教務所長 高山 崇
教育部出仕に任命します

東京教務所長 中根慶滋
東京宗務出張所長の兼務を命じます

企画調整局参事 松田亜世
企画調整局出仕に任命します

福井教務所主計 北 秀慧
能登教務所主計に任命します

財務部主事 館 欣子
福井教務所主計に任命します

能登教務所主計 出雲路善秀
大阪教務所主計に任命します

山陽教務所主計 蓮元聖吾
山陽四国教務所主計に任命します

山陽教務所主事 大照 卓
山陽四国教務所主事に任命します

四国教務所主計 福家美香
山陽四国教務所(四国教務支所)主事に任命します

山陽教務所主事補 藤元正是

香
創業宝永年間 各宗大本山御用達
香老舗 松榮堂
京都市中京区烏丸通二条上ル東側
〒604-0857 電話 075(212)5590(代)
www.shoyeido.co.jp

東本願寺御用達
日下念珠店
〒600-8174
京都市下京区烏丸通花屋町下ル
電話 (075)351-6325
フリ-FAX 0120-89-5255
定休日: 日曜日

御本山御用達
燭 薫香
わた悟
わた悟商店
〒600-8223 京都市下京区七条通西洞院西人大黒町239
TEL 京都 (075) 371-7690 FAX 京都 (075) 371-8752

公示・告示・任免等

公示告示

告示第29号

富山県高岡市末広町13番42号

超願寺衆徒 油井映水

岐阜県養老郡養老町室原637番地

長願寺衆徒 日比野恵子

三重県いなべ市員弁町楚原345番地

眞養寺衆徒 桃田葉子

三重県いなべ市員弁町楚原345番地

眞養寺衆徒 桃田孝二

福井県敦賀市大比田19号38番地

蓮教寺衆徒 天谷英利

滋賀県東近江市五個荘金堂町879番地

勝徳寺衆徒 塚本祐士

兵庫県姫路市威徳寺町33番地

正願寺衆徒 藤川達暢

兵庫県姫路市威徳寺町33番地

正願寺衆徒 大野昭則

兵庫県姫路市威徳寺町33番地

正願寺衆徒 大野綾香

上記の者は、僧侶条例第19条第1号に該当するものであるため、同条により本日付で僧籍を削除した。

2025年6月30日

宗務総長 木 越 渉

告示第1号

2023～2025年度教化研修計画の基本方針を別紙のとおり定める。

2025年7月1日

宗務総長 木 越 渉

(本誌7月号44頁以降に掲載)

告示第2号

2026年の得度式を以下のとおりとする。

3月 6日(金)

5月 6日(水)

6月23日(火)

8月 4日(火)

8月 7日(金)

9月 8日(火)

10月 7日(水)

11月 6日(金)

2025年7月1日

宗務総長 木 越 渉

告示第3号

寺院の願事に対する礼金の一部を下記のとおり改め、2026年7月1日から実施する。

2025年7月1日

宗務総長 木 越 渉

記

1 願事礼金

似影 330,000円

ただし、住職または教会主管者であった者に限る。

以上

告示第4号

授与物授与に対する礼金を下記のとおり改め、2026年7月1日から実施する。

2025年7月1日

宗務総長 木 越 渉

記

1 授与礼金(1寺院の部・2門徒の部)

正信掲 同願本 致行集



第十五世住職継承記念

東本願寺出版発行書籍の表や裏のご指定のところに、文字を印字することができます(例:第十五世住職継承記念 など)。

詳しくは東本願寺HP
「各種記念品の取り扱い」
からご覧ください⇒



〈お問い合わせ〉 東本願寺出版 [books@higashihonganji.or.jp]

伽羅・沈香・線香・匂い袋



香老舗 薰玉堂

創業文禄三年(1594年) 〒600-8349 京都市下京区堀川通西本願寺門前
電話 (075) 371-0162(代)
ファクシミリ (075) 343-1459

真宗 9月号

公示・告示・任免等 ご案内・要項

公示・告示・任免等

公示・告示	(2)
任免辞令	(3)
住職	(6)
住職代務者	(7)
教会主管者代務者	(7)
教師	(7)
教導発令	(7)
得度	(7)
功章・旌賞	(8)
敬弔	(9)
授与礼金 (2026年7月1日～)	(12)

ご案内・要項

真宗本廟 参拝接待所のご案内	(14)
真宗本廟奉仕のご案内	(14)
真宗教化センターしんらん交流館のご案内	(15)
大谷祖廟 (親鸞聖人御廟所)のご案内	(16)
現在受付中の募集・開催要項等	(16)
真宗本廟奉仕・縁・諸研修報告	(17)
若者教化立ち上げ応援プロジェクト募集要項	(18)
(広告) 月刊『同朋』9月号 —特集「ZINE—誰にも頼まれていないけど作りたい私のメディア」—	(19)

本誌に関してのご意見・
ご要望をお寄せください。

〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る 東本願寺出版『真宗』誌係
FAX:(075)371-9211 E-mail:shuppan@higashihonganji.or.jp

2025年(令和7年)9月1日発行 第1458号 1部定価:275円(本体250円+税10%・送料別 毎月1日発行)

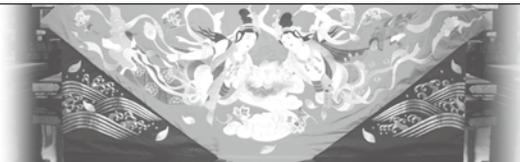
編集 東本願寺出版(真宗大谷派宗務所出版部)

発行所 真宗大谷派宗務所 代表者 木越 渉

〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る 電話(075)371-9181 振替01000-6-27404(出版部)

印刷所 (株)京富士印刷 京都市西京区大枝南福西町3-4

価値ある よき品質の製品をつくる会社



【宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌記念 紅地天人之図総手刺繍御打敷謹納】

〒600-8159 京都市下京区烏丸通東本願寺前(定休日 日曜日・祝日)

■TEL 075-341-6391(代)

■TEL フリーダイヤル 0120-07-6391 ■FAX フリーダイヤル 0120-34-2816

■URL <https://shibata-houiten.com/>(Webカタログ掲載・商品動画配信中)

■E-Mail shibatahoui@mub.biglobe.ne.jp



御量装姿動画

真宗大谷派 東本願寺御用達



京法衣事業協同組合 京法衣事業協同組合加盟店



株式会社 柴田法衣店

今月の推奨念珠



霧水晶(カルセドニー合玉仕立) 店頭小売価格 12,100円(税込) 水晶丸玉を艶消し加工し、カルセドニー合玉と合わせ水色本銅房でお仕立しました。

青虎眼石 二十七玉(共仕立) 店頭小売価格 19,800円(税込) 別名、鷹眼石(ホークスアイ)と呼ばれる青虎眼石を使いやすい二十七玉でお仕立。

※掲載商品のカラー画像はオンラインショップでご覧頂けます。

御法要の記念品は 品質・価格・残った品物の御引取を保証する 念珠の製造専門店

福永念珠舗

創業寛政九年 京都

〒600-8174 京都市下京区東本願寺前上珠数屋町角 電話(075)-351-2960 FAX(075)-351-0018



青虎眼石



霧水晶



福永念珠舗

書いて学ぶ 親鸞のことば 歎異抄 鶴見 晃 著

なぞれる歎異抄と わかりやすい 語注&現代語訳付

「書いて学ぶ」シリーズ待望の『歎異抄』編が登場。「師訓篇」から要となる言葉を、ペンや鉛筆でなぞりながら学べ、お一人でも、お寺の集いの場でも活用いただけるテキスト。平易な現代語訳、仏教語の注、読み解きのためのコラム付き。

B5判 / 56頁 定価：660円(税込)



東本願寺出版 HIGASHI-HONGANJI PUBLISHING

TEL:075-371-9189まで

詳しい書籍情報・試し読みは 東本願寺出版 検索

当派の寺院・教会からのご注文は2割引となります。

お仏壇を中心とした生活・帰敬式実践運動のさらなる展開を願って!



※御本尊は本山からお受けしましょう。
〔三折御本尊 小型 台なし〕

《合掌の心と共に196年》



創業天保元年 伝統工芸 京仏壇・京仏具

株式会社 **若林佛具製作所**

文化財修理 社寺内装・外装工事



株式会社 **若林工芸舎**

【真宗大谷派 ご推奨品】

三折御本尊用 御厨子

価格 49,500円(税込)

※上記価格に三折御本尊、仏具は含まれておりません。
※荷送料は別途でございます。
※写真はAセット(別売 12,650円・税込)仏具入りです。
※価格はいずれも税込みです。

- 仕様: 木製外回り内部各段扉など黒塗り仕上げ
内部三方板金色仕上げ、扉には打掛金具
打ち(金メッキ)、小型三折御本尊用黒塗り
台付(高さ4.5cm)
- 寸法: 屋根張30cm 下幅27cm 奥行18.5cm
高さ37.5cm

◆全国各教務所様、並びに弊社本支店に現物見本がございます。
◆パンフレット・資料をお送り致します。ご請求ください。

京都本店 〒600-8218 京都市下京区七条通新町東入
築地店 / 札幌店 / 仙台営業所 / 福岡営業所

お仏壇の事なら何でもお気軽にご相談ください。☎0120-37-8585

<https://www.wakabayashi.co.jp/>

若林佛具製作所オンラインショップ

<https://www.wakabayashi-jiin.com/>



荘厳仏具から内装・納骨壇まで、全国・宗派対応いたします。
お買い物にお得なクーポン配布中!

『坂東本 教行信証』 カラー影印縮刷本 予約受付中

予約受付期間
2025年9月15日まで

価格：99,000円(税込・送料込)

→予約期間の注文に限り

79,200円(税込・送料込)

聖教編纂室 編

A4変形判(縦30.5cm×横23cm)

オールカラー・箱付き

4分冊：〈一〉「教巻・行巻」160頁

〈二〉「信巻」192頁

〈三〉「証巻・真仏土巻」144頁

〈四〉「化身土本巻・化身土末巻」

232頁 ※各頁数は予定。

ご注文は
こちら→



①東本願寺出版公式オンラインショップにてご注文いただけます。はがき・メール・FAXでのご注文の場合は、お名前・住所・電話番号・部数を明記の上、「東本願寺出版」までお送りください。

※高額のためお電話での注文は受け付けておりません。何卒ご了承ください。

②発送時期は、2025年11月下旬を予定しております。

③お知らせいただきました個人情報は、書籍の送付・請求以外に使用いたしません。
※詳細は本誌14頁をご覧ください。



東本願寺出版

HIGASHI-HONGANJI PUBLISHING

〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る

E-mail: books@higashihonganji.or.jp FAX.075-371-9211

東本願寺出版

検索

